

No. **48** >>> Contents

●提携トピックス	
養蚕農家の歩みと今・・・・・・・・・・群馬県前橋市苗ヶ島町 前原元	1
●蚕糸絹トピックス	
蚕糸包装材料一式製造販売 株式会社宮方商店販売の生糸商標について	
・・・・・・・・・・山梨県中央市豊富郷土資料館 学芸員 今福律子	7
仙台市藤崎百貨店の「純国産宝絹（takaraginu）展」	
・・・・・・・・・・蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会事務局 大石明	15
●海外情報	
ブラジルの養蚕・製糸の現状	
・・・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会蚕糸科学研究所	
研究アドバイザー 木下晴夫	19
●シルク遺産を訪ねて②⑦	
重要文化財に指定された旧新町紡績所	
・・・・・・・・・・東京産業考古学会 副会長 平井東幸	27
●シルク豆辞典	
蚕の孵化と毛・・・・・・・・東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授 横山岳	31
●研究・技術情報	
高格・高品質生糸繰製計画（6 A プロジェクト）	
・・・・・・・・一般財団法人大日本蚕糸会蚕糸科学研究所 所長 清水重人	35
●イベント情報	42
●提携支援センターから	
提携支援センター活動日誌	45
平成 27 年度第 6 次分の純国産絹マーク使用許諾状況	46
純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧	50
●蚕糸絹関係博物館一覧	57
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧	59
●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）	61

養蚕農家の歩みと今

群馬県前橋市苗ヶ島町
前原 元

1 地域の概況

私の住む群馬県前橋市苗ヶ島町（旧群馬県勢多郡宮城村苗ヶ島、平成 16 年前橋市と合併）は、群馬県のほぼ中央に位置する花と緑の純農村地帯です。

「すそ野は長し赤城山」（上毛カルタ）の南麓にあり、中心部（旧宮城村）の標高は 250 m、関東平野を眺望するなだらかな傾斜地が広がり、晴れた日には富士山、東京スカイツリーが望めます。

昭和 50 年代までは一面の桑園地帯でしたが、昭和 60 年代から平成の頃になると養蚕は急激に減少し、現在は酪農、花木、施設園芸、露地野菜、梨園等多彩な農業が営まれています。前橋市の養蚕概況は表のとおりです。

表 平成 27 年前橋市の養蚕概況

養蚕戸数	23 戸（うち旧宮城村 5 戸）
掃立箱数	265.5 箱（30,000 粒 / 箱）
収繭量	13,525.5 kg

2 養蚕農家としての歩み

（1）父から聞いたこと

我家は、明治 24 年、蚕種製造事業を営む本家から間口 10 間、奥行 5 間の総二階「五十の養蚕住宅」を構えて分家し、私で

4 代目となります。

当時、雇用を前提とした養蚕のみならず乾繭取引、座繰り、機織りも行っていたようです。

戦後の食糧増産で桑畑が芋畑になりましたが、外貨獲得の国策によりしばらくして養蚕が復活しました。

昭和 29 年生まれの私は、若葉が繁るころになると母屋の座敷の畳を上げ、蚕棚を組み、ホルマリンで燻蒸して「お蚕さま」を迎える様子を傍らで見て育ちました。



櫓（やぐら）のある総 2 階の母屋全景。母屋の周りに蚕室、椎茸用ハウス等が並ぶ。母屋 2 階は現在は住居になっている。

（2）稚蚕共同飼育所

昭和 38 年、「隣保班」を中心とした 15

戸ほどの養蚕農家により稚蚕共同飼育所が建設され、桑育でしたが作柄も安定し地域一体となって養蚕に取り組んでいました。昭和40年代、飼育所には「カイコを飼ってハワイに行こう!」といったスローガンが掲げられ、養蚕の全盛期でした。

昭和46年、コメ余りによる水田の減反政策がはじまり、我家では60アールほどの田に「永年転作作物」として桑を植え、その減反奨励金を返済資金にあてて農業近代化資金を借り、間口6間、奥行18間の大型木造蚕室を建て、簡易飼育台を5列並べました。

これで母屋をはじめ、作業場、物置等に分散していた^{そうさん}壮蚕飼育を集約し、飼育室と上^{じょうぞく}簇室が分離できたことにより、上簇時の作業の軽減と蚕病を減らすことができました。

(3) 有畜養蚕へ

昭和37年から有畜農業として4頭ほどの肥育牛を飼育していましたが、昭和40年、茨城県玉川農協組合長^{やまぐちいちもん}山口一門氏の提唱する「コメ+α農業」として、長期平均払い制度による肥育豚経営を導入しました。父によると、子供の教育費捻出のためだったとか・・・。

この頃畜産は、安い輸入飼料と肉食文化の拡大によって急成長し、専業また企業化していましたが、我家ではその糞尿を有機質肥料として桑園を中心とした耕地に還元利用できる頭数規模としました。

逆に言えば、桑は最も糞尿還元許容量の

多い作物であったから、養豚を拡大するために桑園を維持拡大したわけです。

(4) 複合経営の確立

昭和52年、私は茨城の農業専門学校を卒業後就農、養蚕を中心に米麦を父が担当し私が養豚を担当しました。

養豚は子取りをする母豚20頭ほどの一貫経営とし、年間300頭位の肉豚を出荷していました。それにともない、糞尿の量も増えていったので、人家から離れた条件の良い遊休桑園を借地して、土壌還元し養蚕も拡大していきました。

昭和54年、二夫婦の家族経営となり、冬期間の収入源として原木椎茸栽培^{しいたけ}を始めました。養蚕の複合作物として多くの養蚕農家を取り入れていて、地元宮城農協の共選生椎茸は東京の築地市場で高い評価を得ていました。



植菌作業 蚕室は、冬場に植菌作業場となる。

こうして二夫婦の家族経営で、米・麦・養蚕・養豚・椎茸という副産物及び機械設備の有効利用で経費節減をめざした複合経

営ができあがりました。

昭和 55 年、土地改良事業により 7 割の桑園を抜根。事業完了後配反された畑地には、酪農家所有の畑以外はほとんど桑が植えられました。私もこれを機に桑苗横伏せによる密植桑園 50 アールを造成しましたが、土壌移動したためか成園化する数年のうちに紋羽病^{もんぱびょう}が拡大し、生産意欲を削いでいきました。今は一列おきに抜根して、普通桑園として利用しています。

（５）輸入生糸

このようなことで我家が繭増産に取り組んでいた昭和 50 年代。中国養蚕の発達は急激で、「中国の繭・生糸は品質が悪くてきものには使えない」と言う人もいましたが脅威^{きょうい}を感じたものです。

以後プレス繭、生糸、加工品（織物、二次製品）等様々な形で輸入が増えて、生糸価格は急激に下落し、年間でみると各蚕期の繭出荷前になると更に下落していたようです。

平成 6 年に生糸の一元輸入制度が廃止され、「取引指導繭価（農家手取繭代）」が定められました。これは国の補填金＋実需者（製織業者）から徴収する輸入調整金＋製糸支払い繭代で 1,518 円 /kg を農家に支払うという制度だったと思います。平成 12 年からは品質評価措置が実施され、農家手取繭代 2,000 円 /kg が実現可能となりましたが、それにかろう繭品質は選除繭率 0.3% 以下、解じょ^{かい}率 85% 以上（繭格 5A）ということで、上簇後の温湿度管理、収繭時

の選繭に細心の注意を払うようになりました。

平成 5 年から、当時普及し始めたパソコンを利用した経営分析をしていた私達（群馬県中部蚕業事務所管内の若手養蚕農家 8 人ほど）は、繭の生産費について、物財費で 900 円～1,200 円 /kg、それに自家労賃を公務員並みの時給で加えると繭生産費は 3,800 円 /kg になると認識していたので、この価格では夫婦二人で半年頑張っても 1 t の繭を生産しても、手元に残るのは 30 万円～60 万円ということになり、多くの仲間は「これでは子供は育てられない」と、養蚕をやめていきました。

その後「取引指導繭価」は平成 19 年まで続きますが、この間がそれぞれの養蚕農家の生き方の訳で、「農業の選択的拡大」ならぬ「養蚕農家の必然的複合化」でした。

（６）養豚やめる

平成 15 年、企業養豚があたりまえの時代、豚価低迷。豚舎は老朽化し、両親も高齢となったので、養豚をやめました。豚舎の跡地は農地に地目変更し、椎茸用のビニルハウスを建てたり人工ホダ場（椎茸のホダ木を養生する施設）として利用することにしました。

（７）新たな進展

平成 20 年、蚕糸絹業提携システムが発動。群馬県においては「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録への気運の高まりとともに、2,000 円 /kg の繭価が見

えてきて励みになりました。

しかし、平成 23 年 3 月の東日本大震災による福島原発事故で、放射能汚染が群馬にも拡がり、我家の場合、消費者団体に届けていた麦茶用の大麦及び生椎茸の取引が停止となりました。

椎茸は農協による市場出荷に変更しましたが、以前のような値はつきません。また、放射能の基準をクリアした原木の購入が困難となり、価格も高騰したままです。5 年経った今でも、原木、ホダ木、生椎茸の各段階で放射能検査を行い、安全が確認できた椎茸だけを出荷しています。

そんな折の提携システムの始動。平成 26 年 6 月の「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録により、純国産生糸に注目が集まり、平成 27 年産においては各蚕期 2,200 円 /kg 以上、更に群馬県独自の特別支援もあり、過去最高の繭の手取収入となりました。

平成 27 年は大日本蚕糸会より「緊急繭増産体制強化事業」が示されました。我家は繭増産支援事業の 1. 増掃奨励事業、2. 繭増産奨励事業、3. 養蚕ヘルパー雇用助成事業の全てを受けることができました。

平成 26 年は家族の健康上の都合で掃立箱数を減らしたのですが、養蚕ヘルパー雇用助成があったので、増掃きに踏み切りました。

我家のヘルパーさんは公務員を定年退職された男性 1 人、午前中に野菜農家の収穫作業に従事した後、午後半日来て頂き、各蚕期 1 箱（30,000 粒）増掃きというか、復活掃きができました。



条払い機（じょうばらいき）で熟蚕（じゅくさん）を収集

3 我が家の経営概況

養蚕農家としての歩みを記してきましたが、最近の我家の経営概況を少し紹介します。次表のとおり基本的には夫婦二人の「養蚕・椎茸・水稻」による複合経営です。

4 これから

（1）養蚕の担い手問題

それにしても養蚕の担い手をどう確保するかです。私とて地域で最若輩者といっても 61 歳。長男は公務員で、都合がつけば上族を手伝う程度。新規就農には所得安定性が問題で現状では不安はぬぐえません。当面、平成 27 年の価格、諸制度の拡充を願いながら身体に気をつけ頑張るしかありません。

しかし、地域で平成 26 年実績の維持増

○我が家の経営概況

農業従事者	2人(本人、妻)
雇用	年間50人

(1)養蚕部門

施設状況

桑園面積	127a (自105a、借22a)
飼育蚕室(貯桑室含)	1棟 (木造 116坪)
上蔭室	2棟 (木造 43坪)

繭生産量

単位: kg

年度	春	夏	初秋	晩秋	年間
H25	298.8	199.7	187.1	277.7	963.3
H26	229.8	232.7	187.7	189.2	839.4
H27	186.3	265.9	228.4	269.5	950.1

注: 1) 蚕品種: 春、夏、晩秋は「ぐんま200」、初秋蚕は「錦秋×鐘和」

2) H27春は、「白麗(はくぎん)」

(2)原木椎茸部門

原木(購入のみ)	5,000本毎年植菌 (オガ菌3,000、木駒2,000)
生産量	生椎茸 4,000kg (11月～4月)
施設	水槽、ホイス、ビニルハウス5棟(268坪)

(3)水稻

栽培面積	130a (自作地115a、借地15a)
収量	480kg/10a 品 種: コシヒカリ

(4)その他

山林	600a(スギ、ヒノキの人工林)
畑	自家菜園 30a

産という高いハードル(※)があります。地域内の高齢の方が健康を理由に養蚕から離れるのは仕方のないことです。でもその分を残った養蚕農家がカバーできるのでしょうか。

(※群馬県の県単事業「蚕糸業継承対策事業」の助成要件に「農家等が組織する協議会の養蚕実績がH26の実績を上回ること」という項目がある。)

(2)日本の絹の物語

改めていうまでもなく日本の絹産業、絹文化は、多くの業種の方達の連携によって成立しています。養蚕農家の担当する部分は、桑を栽培して、蚕の卵(正確に言えば3齢休眠前の稚蚕)を繭に仕上げているだけです。卵の前にも気の遠くなるような先人の努力と知恵があり、また繭が製品として仕上がるにはいくつかの工程があることでしょうか。そして製品は、文化、暮らしを

育みます。

そんな連携も、純国産となると量的には昨今 0.3 パーセントと聞きます。経済合理性の結果と言えはそれまでですが、これが全く無くなってしまったら「日本の絹の物語」は成立しません。

平成 27 年春蚕において、提携先からの要請で「白麗（はく^{はく}れいぎん）」という初めて聞く蚕品種を 18 万頭ほど飼ってみました。世界最細最美の糸ができる品種とのこと

で、不安材料の続出でしたが、蚕種会社、県蚕糸技術センター、農協の指導を受けながら、経験上の工夫も加えてどうにか繭出荷ができました。

今後は、このような提携先のニーズに対応していくのが養蚕農家の方向でしょう。

「カイコは、毎回、ケイコだな！」

桑の芽も伸びて、今年も春蚕が始まります。



蚕の飼育体験 養蚕を未来に引き継ぐために小学生による体験作業も積極的に受け入れる。
(写真：上毛新聞社提供)

蚕糸包装材料一式製造販売 株式会社宮方商店販売の生糸商標について

山梨県中央市豊富郷土資料館

学芸員 今福 律子

はじめに

平成 27 年 1 月半ば、山梨県中央市豊富郷土資料館は「亡くなった両親が経営していた蚕糸関係の工場を整理する前に見に来てほしい」という相談の電話を受けた。そして、平成 27 年 1 月 18 日、JR 中央線石和温泉駅前で平成 26 年 10 月まで営業していた「株式会社ミヤカタ」の工場を見せていただく機会を得た。この工場は大正時代に山梨県韮崎出身者が横浜市中区馬車道に設立した蚕糸包装材料一式を製造販売する「株式会社宮方商店」の自社工場であり、山梨県東山梨郡石和町駅前にて昭和 18 年頃から戦争疎開も兼ねて操業したと言われる。以来、平成 26 年 7 月まで創業者の親族であった須田夫妻が工場を稼働させていた。最後は主に編索糸と括糸を供給していたという。

平成 27 年 10 月現在、工場内には様々な資料が残されており、生糸を出荷するために不可欠な資材の数々、またこれらを製造する機械が存在している。その中でも、生糸商標（チョップ）を張り付けた見本帳 2 冊からは、昭和 30 年代以降に全国各地で操業した製糸工場、繭検定所、生糸問屋（以下「製糸工場等」という）の情報を得

ることができる。製糸工場等の存在した地域の郷土研究資料として今後の活用が期待できる貴重な資料と言える。

1 株式会社ミヤカタの沿革

平成 26 年 10 月まで、株式会社ミヤカタは山梨県笛吹市石和町駅前において営業していた。昭和 63 年以前は横浜を本社とする「株式会社宮方商店」という名称であり、油単（繭袋）が主力商品であった。名称が株式会社ミヤカタになってからは、編索糸と括糸を主に販売していた。以下に関係者から聞き取った「株式会社宮方商店」から「株式会社ミヤカタ」に至る沿革を記述する。

（所在地）

- ・株式会社ミヤカタ：
山梨県笛吹市石和町駅前
 - ・株式会社宮方商店：
横浜市西区平沼町一丁目四十六番地
蚕糸包装材料一式製造販売
 - ・工場：山梨県東山梨郡石和町駅前（当時）
- （沿革）
- ・大正時代：韮崎市祖母石出身の宮方氏が
横浜市中区馬車道（住所不明）に「宮方商店」として創業する。大正 12 年の関

東大震災時には、既に会社が存在していた。

- ・ 創業者の甥にあたる宮方準二氏が引き継ぎ、横浜市西区平沼町に会社と工場を設置。
- ・ 昭和 18 年頃：戦争疎開のため、工場を山梨県石和町駅前にも設置（写真 1）。
- ・ 昭和 63 年：横浜の会社及び工場を閉鎖。
- ・ 昭和 63 年：須田和美・さよ子夫妻が山梨で社名を「株式会社ミヤカタ」と改め、操業を続ける。
- ・ 平成 26 年 10 月：須田夫妻が亡くなり営業停止。

2 （株）ミヤカタの工場内の現在の様子

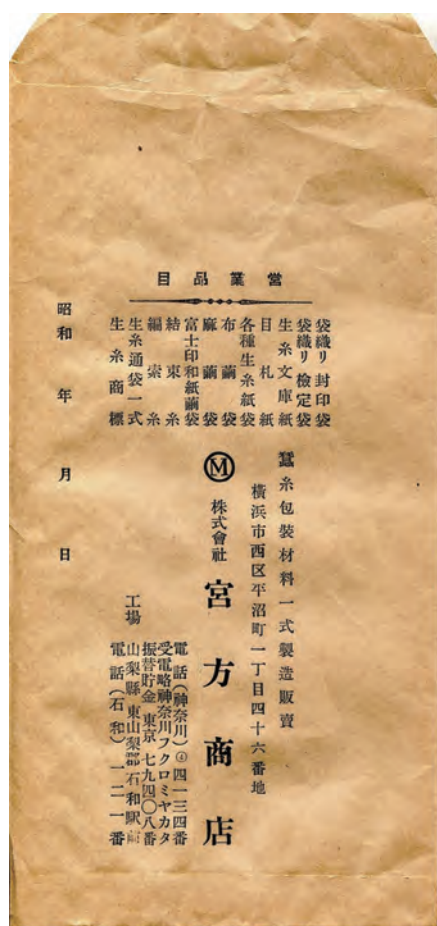


写真 1：昭和 63 年迄使用していた
（株）宮方商店の社用封筒

平成 27 年 1 月 18 日現在、工場内で確認できた主要な機械等は以下のものである。

- ① 総を作る^{かせ}編索糸^{あみそいと}をチーズ巻にする機械
(写真 2) ※注 1
- ② 括糸^{かついと}(結束糸) づくり機 (写真 3) ※注 2
- ③ 括糸をまとめる機械
- ④ 管巻^{くだまき}(小型チーズ巻) をする機械
- ⑤ 繭袋等を縫ったミシン、巻管、括糸、編索糸見本、印刷済み生糸商標（工場内取材時には、山形県の松岡株式会社、群馬県の株式会社吉野組製糸所、茨城県の須藤製糸株式会社、山梨県の平井製糸場の生糸商標が作業台上に多数残されていた）など。

工場内の機械は、スイッチを入れれば直

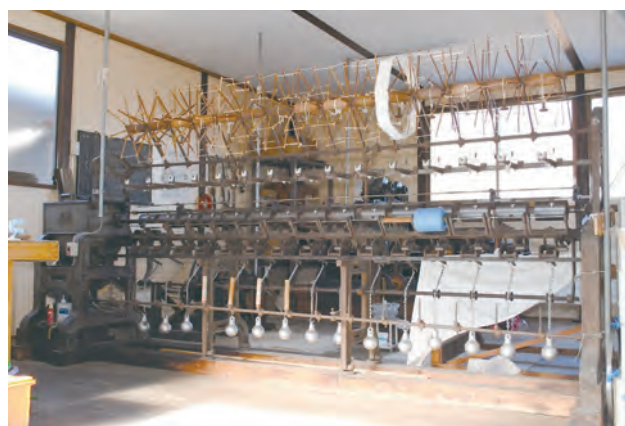


写真 2：編索糸機械



写真 3：括糸機械

ぐに動かせる状態である。今は亡きご夫妻の娘さん達は、両親が亡くなってから取引先であった製糸工場や織物業者から問合せがあり、「ミヤカタ」の同業者を紹介してほしいと頼まれたがみつけれなかったという。さらに、「他に同業者が見つからないということは、この工場内にある機械が貴重なものであり、また、操業時そのまま保存されている状態をなるべくたくさんの専門家の皆さんに見ていただき、これらの機械を活用できる方策見つけたい」との希望であった。

3 生糸商標について

工場内取材から数か月後、現在（株）ミヤカタの工場建物・資材を管理されている須田夫妻の娘さんから、生糸商標の見本帳2冊を見つけたという連絡を受けた。中央市豊富郷土資料館では、販売会社所有の一括資料として重要であると考え、データ作成のため借り受けて調査を行うこととなった。

生糸の商標は、通称「チョップ」とも呼ばれ、タテ 10.5 cm × ヨコ 7.5 cm 程の小さな紙片である。製糸工場毎に生産される生糸を識別するために添付されるラベルである。製糸工場等ごとのオリジナルデザインは、等級や品質によっても色やデザインに違いがあり、とても美しいものである。

（株）宮方商店・（株）ミヤカタでは、この生糸商標を製糸工場等に販売していた。注文を受けると、希望するデザインを考案し、横浜の印刷会社にデザインの修正・印

刷を委託していたそうである。（株）宮方商店の販売した生糸商標の一部には、右下の端に『宮方印行』と小さくプリントされたものがみられる（以下「宮方商標」と云います。）。(写真4)。



「宮方印行」の文字

写真4：「宮方印行」の文字

4 宮方商標見本帳調査概要

（1）調査の経緯

平成 27 年 6 月 21 日に所有者より借用し、資料のデータ収集を行った。黒表紙と赤表紙の 2 冊の見本帳に添付されている生糸商標の画像を一枚ずつスキャナーで読み込み、デジタルデータ化した上で、記載されている製糸工場等名、地名などの情報をリストアップするという手順である。調査は平成 27 年 9 月 15 日に終了し、資料を返却した。

（2）調査一覧

①宮方商標の製糸工場等別情報リスト

（製糸工場等名、都府県、住所、年月日、

写真 No、デザイン、大きさ)

②宮方商標（生糸チョップ）の画像デジタルデータ

③宮方商標の県別総数まとめ

（３）調査結果概要

ア 結果概要

調査の結果は、次のとおりである。２冊に添付されていた宮方商標（生糸チョップ）の総数は 817 枚である。24 都府県、215 か所の製糸工場等のものが確認できた。また、商標の下には年月日が記されており、黒表紙見本帳には昭和 31 年 4 月 9 日～昭和 42 年 12 月 21 日まで、赤表紙見本帳に

は昭和 60 年 2 月 19 日～平成 7 年 5 月 24 日までが記載されていた。同じ会社の同一デザインのものも多くあるが、下に記入された年月日が違うため、増刷や色の微修正依頼がある度に書き加えられたものと思われる。戦後製糸業が活況であった昭和 30 年代の生糸商標が最も多くみられ、平成に入っても継続して生糸商標を発注している製糸工場等は減少しているが、同一工場のデザインの変化、我が国蚕糸業の消長等が垣間見えて興味深い資料である。また、この 2 つの冊子には生糸商標が剥がされて無くなったと思われる空欄も多数みられた（写真 5、6）。



写真 5：黒表紙見本帳



写真 6：赤表紙見本帳

イ 宮方商標の県別総数まとめ

表（県別総数まとめ）に示すように、生糸商標総数：817 枚、製糸工場等数：215、所在都府県：24 である。

表（県別総数まとめ）

県名	製糸工場等数	枚数
岩手	1	1
宮城	3	6
茨城	7	39
山形	5	20
新潟	4	30
福島	5	35
群馬	17	77
栃木	1	1
千葉	1	1
埼玉	10	87
神奈川	5	17
東京	6	21
長野	56	210
山梨	63	192
静岡	3	4
愛知	5	12
岐阜	1	1
三重	2	5
京都	1	1
兵庫	1	1
熊本	1	6
佐賀	1	3
鹿児島	1	3
宮崎	1	11
所在地不明	14	33
計	215	817

ウ 製糸工場等名

（県別に五十音順とし、現在の市町村名を記した）

岩手県（1）：下閉伊座繰製糸（宮古市）

宮城県（3）：佐竹製糸工場（白石市）・菅原製糸場（涌谷町）・涌澤製糸場（南三陸町志津川）

茨城県（7）：飯田製糸場（石岡市）・小口産業（古河市）・神栄株式会社石岡工場（石岡市）・須田製糸所（古河市）・須藤製糸株式会社本部工場（古河市）・須藤製糸株式

会社松原工場（古河市）・三浦製糸所（古河市）・ヤグチ（不明）

山形県（5）：石黒製糸（南陽市宮内）・上山長谷川製糸所（上山市）多勢丸一製糸場（南陽市池黒）・松岡製糸（酒田市）・両羽共同製糸場（村山市）

新潟県（4）：上省製糸（魚沼市虫野）・十日町シルク農業協同組合連合会、十日町製糸場（十日町市）・中条製糸所（胎内市中条町）

福島県（5）：安達製糸（二本松市）・大泉製糸所（いわき市平）・会達製糸（二本松市）・会陽工業（喜多方市）・フクヨ製糸（二本松市）

群馬県（17）：梅沢製糸所（前橋市）・株式会社赤城社（みどり市大間々町）・株式会社吉野組製糸所（渋川市）・かぶら社（富岡市）・群馬蚕糸製造下仁田工場（下仁田町）・群馬蚕糸製造中之条工場（中之条町）・群馬蚕糸製造原市工場（安中市）・群馬蚕糸製造室田工場（高崎市）・群馬玉糸横手工場（前橋市）・下田製糸所（前橋市）・新日本絹撚（桐生市）・高松製糸所（高崎市）・東邦製糸（安中市松井田町）・富岡製糸所（富岡市）・富岡玉糸（富岡市）・藤岡蚕糸（藤岡市）・フジヤマ蚕糸（藤岡市）・ワタツシルクリーリング（前橋市）・丸登製糸（前橋市）・横手館製糸所（渋川市）

栃木県（1）：栃木県経済連小山シルク製糸工場（小山市）

千葉県（1）：石橋我孫子製糸所（我孫子市）

埼玉県（10）：出浦蚕糸（小鹿野町両神）・協和製糸（熊谷市）・埼玉県本庄蚕糸（本

庄市)・埼玉繊維工業(本庄市)・須藤製糸
幸手工場(幸手市)・日本シルク(松山市)・
比企蚕業(小川町)・丸和蚕糸(深谷市)・
武蔵蚕糸(飯能市)・大和組製糸神保原工
場(上里町)

神奈川県 (5)：神奈川県繭検定所(厚木
市)・カネカケンギョウ(愛川町半原)・角
田商店(横浜市)・シンワトレーディング(横
浜市)・川口製糸(横浜市)

東京都 (6)：内倉製糸(あきる野市戸倉)・
内堀製糸場(大和市)・鴨下製糸場(小金
井市)・小山(丸多)製糸所(あきる野市
秋多)・高橋産業(あきる野市戸倉)・東京
都繭検定所(立川市)・丸十物産(あきる
野市戸倉)

長野県 (56)：味澤製糸(岡谷市)・安曇蚕
糸玉糸工場・安曇蚕糸(安曇野市)・市川
製糸場(佐久市野沢)・伊南社赤穂工場(駒
ヶ根市)・伊南社平沢製糸合資会社(伊那
市)・伊南社南向工場(伊那市)・今井玉糸
工場(小諸市)・岩田製糸所(佐久市臼田町)・
ウサミ製糸(不明)・臼田製糸(佐久市臼
田町)・岡谷共栄製糸(岡谷市)・小幡製糸
所(中野市)・笠原製糸(岡谷市)・金ル組
林製糸(岡谷市)・株式会社入二浜製糸所(岡
谷市)・木屋製糸(飯田市)・共同蚕糸(飯
田市)・更埴社(須坂市)・信濃蚕糸工業(須
坂市)・信水社(塩尻市)・須坂製糸協同組
合(須坂市)・高姫社(池田町)・千久水社(小
諸市)・千曲社(千曲市)・茅野製糸(岡谷
市)・ツカダ(御代田町)・天龍社(飯田市
市)・天龍社市田工場(高森町)・天龍社本社工
場(飯田市市)・日本絹織(信濃町)・野口

製糸所(諏訪市)・原製糸(長野市松代町)・
広田産業(須坂市)・フジモリ(茅野市金沢)・
北水社(須坂市)・北水社須坂工場(須坂市)・
北水社松代工場(長野市)・細田製糸(上
田市)・増沢工業製糸部(岡谷市)・マルオ
ー(岡谷市)・丸興製糸岡谷工場(岡谷市)・
丸十物産(諏訪市)・丸中製糸(岡谷市)・
マルヨシルク(佐久市)・ミハト製糸(岡
谷市)・宮坂製糸所(千曲市埴生郡)・山大
製糸(岡谷市)・山吉組製糸(岡谷市)・横
田製糸所(中野市)・吉田館(岡谷市)・龍
上社(諏訪市)・龍水社(駒ヶ根市)・龍水
社赤穂工場(駒ヶ根市)・龍水社伊那工場(伊
那市)・龍水社中箕輪工場(箕輪町)

山梨県 (63)：石喜屋石原製糸場(笛吹市
御坂町)・青嶋製糸場(市川三郷町市川大
門)・秋山製糸場(富士川町増穂)・旭館望
月製糸所(富士川町増穂)・芦澤周作製糸(甲
府市)・石川製糸場(南アルプス市若草)・
石川製糸場(甲府市伊勢)・石喜屋製糸場
(笛吹市御坂町)・磯部製糸所(南アルプス
市甲西)・イチカワ(甲府市)・伊藤製糸(甲
府市)・上野原製糸場(上野原市)・塩山シ
ルク工業(甲州市塩山)・遠藤製糸(甲府市)・
大下製糸場(山梨市)・荻野製糸所(南ア
ルプス市櫛形)・小澤製糸有限会社(甲府
市)・尾谷製糸場(甲府市)・笠原製糸大井
工場(南アルプス市甲西)・金井製糸場(山
梨市)・金子製糸工場(甲府市)・カネセイ
製糸(南アルプス市白根)・甲玉社中村製
糸所(甲府市)・株式会社大正館製糸場(富
士川町増穂)・共栄シルク(甲府市)・甲府
蚕糸工業(甲府市)・五味製糸場(山梨市)・

齊木製糸場（市川三郷町市川大門）・齊藤製糸場（南アルプス市白根町）・桜シルク工業（甲府市）・佐藤製糸場（甲府市）・志村製糸場（山梨市）・下倉製糸所（南アルプス市甲西）・シルクロード社（富士川町増穂）・シンコウカン製糸・鶴田製糸場（山梨市）・合資会社鶴田商店（甲州市塩山）・土橋製糸場（甲府市）・長坂製糸場（甲府市三日町）・永田製糸所（山梨市）・中村製糸（韮崎市）・日昇館製糸（笛吹市春日居町）・日新館矢崎製糸場（甲府市）・ニッタ（甲府市）・花輪製糸場（南アルプス市櫛形）早川製糸（山梨市）深澤製糸（甲府市）・深澤製糸第二工場・富士シルク工業（山梨市）・藤巻製糸所（南アルプス市甲西）・古明地蚕糸（甲州市塩山）・古屋シルク工業（甲府市）・古屋真保製糸場（甲府市）・松本製糸場（甲州市塩山）・丸市製糸（甲府市）・丸真古屋製糸場（甲府市）・丸山製糸場（甲府市）・南岳荘清水製糸（南アルプス市八田）・望月製糸所（市川三郷町市川大門）・模範社（甲斐市敷島）・模範社甲府工場・矢野製糸場（富士川町増穂）・山梨県繭検定所（甲府市）

静岡県（3）：石橋沼津製糸（沼津市）・石橋撚糸（静岡市）・静岡県繭検定所

愛知県（5）：オグロ生糸（豊橋市）・加茂蚕糸販売農業協同組合連合会（豊田市）・三州石川組（豊橋市）・東海製糸・中村製糸

岐阜県（1）：松田製糸所（中津川市坂下）

三重県（2）：高岡生糸（鈴鹿市高岡）・田島シルク（亀山市）

京都府（1）：城丹製糸（綾部市）

兵庫県（1）：神栄生糸（神戸市）

熊本県（1）：熊本繭繊維（熊本市出水）

佐賀県（1）：池田製糸（佐賀市大和町）

鹿児島県（1）：岩切製糸場（鹿児島県大崎町）

宮崎県（1）：都城玉糸工場（宮城県都城市）

所在地不明（14）：AKMOR ファブリック・CARSLEY SILK・JACK SLUTSKY TEXTILES・N S H・ウサミ工業・オオイタ・改良社・キリュウ・コイデ生糸工場・丹葉蚕糸販売農業協同組合連合会・ナミキ製糸・リュウトウ玉糸 他

※注 3

おわりに

山梨県では、平成 22 年まで操業の吉岡製糸場を最後に製糸工場は無くなったが、（株）ミヤカタは平成 26 年まで全国の製糸工場等に資材を供給していた。当地の製糸業の歴史において、「（株）ミヤカタ・（株）宮方商店」の存在及びその業務内容を記すことは、意義深いことだと考えている。また、見本帳 2 冊に貼られた宮方商標（生糸チョップ）の数々は、これらを使用した日本各地の製糸工場等の活動を示す貴重な資料でもある。

なお、中央市豊富郷土資料館で収集した見本帳 2 冊分の宮方商標データ及び詳細記録の公開については、著作権、商標権等に抵触しないことが明らかな場合のみ、所有者の了承により、提供が許可されている。（平成 27 年 10 月 27 日記）

※注1：編索糸^{あみそいと}とは、中細の木綿糸^{かせ}のことで、製糸場で総^{かせ}の形に巻き取られた生糸の、最初と最後の糸口がわかるように、さらに、糸同士がもつれないようにかける糸のことである。製糸工場で行われるその作業は「あみそがけ」と呼ばれ、この作業に使われる木綿糸は、糸口を示す白色の他に、織度別（糸の太さ別）に色が決まっており、紫・ピンク・黄色がある。

※注2：括糸^{かついと}とは、出荷する際に生糸の総を結束するための木綿のひものことである。総が何束か結束されたもののことを括^{かつ}とよぶ。

※注3：宮方商標（生糸チョップ）の記載情報をもとに製糸工場等名と現在の所在地名を調べて記した。正式名称が不正確であったり、所在地が不明なものもある。ご存知の方は中央市豊富郷土資料館まで是非お知らせいただきたい。

■参考文献：

- ・山梨県蚕糸業概史（昭和34年）、小宮山寛六編
- ・山梨県工業統計調査結果報告
- ・蚕糸絹年鑑（昭和56年）、日本蚕糸新聞社

- ・国用器械製糸工場名簿（昭和44年）、日本生糸問屋協会
- ・器械製糸工場名簿（昭和44年）、農林省蚕糸園芸局編集、日本製糸協会発行
- ・近年の日本国内蚕糸業の動向と製糸工場の現状（高崎経済大学論集第56巻第4号）（平成26年）、大島登志彦・原田喬

■聞き取り協力：（株）ミヤカタ関係者の皆さま、元吉岡製糸場経営者、山梨県蚕糸協会、長野県岡谷蚕糸博物館、（株）宮坂製糸所（長野県岡谷市）、松澤製糸所（長野県下諏訪町）、高崎経済大学経済学部大島登志彦教授、安中市学習の森ふるさと学習館

■中央市豊富郷土資料館^{とよとみ}

〒400-1513 山梨県中央市大鳥居1619-1
TEL：055-269-3397

休館日：月曜・祝日の翌日

入館料：大人250円 こども100円
（幼児と65歳以上無料）

E-mail：ty-shiryokan@city.chuo.yamanashi.jp

HP：http://toyokyouodos.cocolog-nifty.com

仙台市藤崎百貨店の「純国産宝絹（takaraginu）展」

蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会事務局

大石 明

純国産宝絹展の概要

平成 28 年 1 月 28 日（木）から 2 月 2 日（火）仙台市「藤崎百貨店」7 階催事会場において「純国産宝絹展」を開催しました。仙台の老舗百貨店での開催で 5,000 名以上のお客様に来場いただきました。今回は、丸森町^{まるもり}の方々の協力を得て、講演、実演により、宮城県の蚕糸・絹業の歴史と現状を PR しました。大変な好評を得ました。また、生きた蚕と多様な繭展示コーナー、各種実演、参加型ワークショップも好評でした。展示作品（試作品）コーナーは、東京都世田谷区二子玉川で展開した女子美術大学作品及び提携グループ作品により、純国産絹による素材の良さ、感性・技術の高さをアピールしました。提携グループ協力による作品コーナーも多様に展開しまし

た。

1 展示会の各コーナーの内容

1) 純国産絹 PR 展示コーナー

- ・生きた蚕と多様な繭展示
（「蚕の一生」のほか関連パネル展示）
- ・映像上映：奇跡の糸が出来るまで

2) 宮城県の養蚕・絹業の歴史コーナー

- ・パネル展示による紹介（宮城県の蚕糸・絹業の歴史、製糸会社、養蚕業）

3) シルクカルチャー講演会

- ・講師 奥州白石郷土工芸研究所
佐藤 和子

「日本の絹を支えた農村女性の底力」



藤崎百貨店本館 7 階会場全景



初日午前中の混み具合



佐藤和子氏の講演

- ・ 講師 養蚕農家
佐藤 靖
「養蚕農家の作業風景」
- ・ 講師 京都工芸繊維大学
一田 昌利
「宮城県から発信：新しい蚕糸・絹業」
- ・ 講師 地域創生ビジョン研究所
園部 尚
『希少繭「小石丸亘理」の再生と
「桑プリン」の6次産業化』
- ・ 講師 蚕糸科学研究所所長
清水 重人
「絹と人の関わり」
- ・ 講師 蚕業技術研究所所長
新保 博
「蚕のお話」
- ・ 講師 蚕業技術研究所前所長
井上 元
「日本の養蚕の歴史と文化」

4) 試作品展示コーナー

- ・ 若い感性を生かした女子美術大学の
試作品コーナー
- ・ 素材の良さ技術の高さを生かした提



提携グループの試作品

携グループ試作品コーナー

5) 蚕糸・絹業提携グループの出品コーナー

6) 実演コーナー

- ・ 結城紬地機 小倉商店 小柳阿佐子
- ・ 紅花染め 新田克比古
- ・ 塩溶液法座繰及び奥州座繰 結工房
吉田信子、石塚恵美



奥州座繰の実演（吉田信子さん）

7) 参加型ワークショップ

- ・ ミニ手機織 片岡志保里（西陣織会館）
- ・ シルクハンカチ染め 新田克比古

- ・組紐ブレスレット 龍工房（福田隆・福田隆太）
- ・一粒繰り 一般財団法人大日本蚕糸会
- ・繭クラフト Yes 工房 28 日～30 日、陽だまり工房 31 日～2 日

2 媒体

- 1) ポスター B 2 サイズ 400 枚
- 2) パンフレット A 5 サイズ・8 ページ、4,000 部
- 3) 協議会ホームページに告知アップ及び結果報告掲載
- 4) 河北新報に告知掲載 1 月 27 日(水) 朝刊
- 5) テレビ放映
 - ・N スタみやぎ内 CM (TBC)
 - ・報道ステーション内 CM (KHB)
 - ・めざましテレビ内 CM (OX)
- 6) ラジオ放送
 - ・藤崎インフォメーション 1 月 27 日～2 月 2 日
 - ・フジサキフレッシュスボーイズ 1 月 27 日～2 月 2 日
- 7) 藤崎ホームページ、藤崎会報誌「club,F」掲載
- 8) 店頭ファッションボード
- 9) 会期中取材
 - ①河北新報 朝刊（経済面）1 月 30 日（土）
 - ②TV
 - ・OH バンデス「藤崎ウィークリーガイド」(MMT) 1 月 29 日（金）

- ・突撃！ナマイキ TV「デパスパー番乗り」(KHB) 1 月 29 日（金）

宮城県蚕糸・絹業の歴史

宮城県では、仙台藩が養蚕奨励の条例を出したことをきっかけに絹業が発展し、明治時代に最盛期を迎えました。製糸工場や繭生産量が激減した現代においても、海外の有名ブランドとコラボレーションをするなど様々な試みで蚕糸絹業を盛り上げています。

〔江戸時代〕

- | | |
|------------|--|
| 1615（元和元）年 | 仙台藩は他藩に先駆け、養蚕を奨励する条例を出す |
| 1688（元禄元）年 | <small>もとよしぐんいりや</small> 本吉郡入谷地区（南三陸町）で養蚕を奨励 |
| 1720（享保5）年 | <small>まるもり</small> 宮城県丸森町で養蚕が普及し始める。先進地である福島県の伊達地方に隣接していたため、良質な蚕種や桑苗が移入される。 |
| 1772（安永元）年 | <small>だてしきぶ</small> 伊達家重臣伊達式部 <small>むらよし とよま</small> 村良（登米藩領主）が養蚕を奨励 |
| 江戸中期 | <small>かねやま</small> 丸森町金山の名産「金山紬」が仙台紬と称され仙台藩の特産品となる |

〔明治〕

- 1872（明治 5）年 本県製糸工場第一号を仙台市百騎町に設置
- 1877（明治 10）年 宮城県が宮城町南小泉村（仙台市）に大桑園を造成
- 1878（明治 11）年 宮城県原町（仙台市）に養蚕稽古所を設置
- 1880（明治 13）年 本県器械製糸場第一号を本吉郡横山村（登米市）に設置
宮城県が仙台区北四丁に座繰協同製糸場を設置
- 1881（明治 14）年 仙台生糸仲買商組合が結成（本県生糸商組合第一号）
- 1885（明治 14）年 宮城農学校、養蚕実習を開始
- 1889（明治 18）年 県は蚕室内の湿度を乾湿計により計る方法を初めて県下に公表
- 1894（明治 27）年 藤崎三郎助が羽二重機操業開始
- 1898（明治 31）年 養蚕の普及訓練のために亘理簡易養蚕学校が開校
- 1900（明治 33）年 宮城県志津川（南三陸町）産の生糸銘柄

「金華山」がパリ万博でグランプリを受賞

藤崎三郎助が生糸荷造所を新設

郡立亘理養蚕学校を設置

1901（明治 34）年 加美農蚕学校を設置

1911（明治 44）年 藤崎三郎助が株式会社藤崎呉服店を設立

〔大正・昭和・平成〕

1920（大正 5）年 糸価が暴落し、蚕児を放棄する養蚕農家が続出

1927（昭和 3）年 加美農蚕学校に宮中紅葉山御養蚕所より原種と交配種、6 蛾を御下賜

亘理養蚕学校に紅葉山御養蚕所より小石丸と原種、10 蛾を御下賜

2013（平成 25）年 国の重要無形文化財である仙台市の絹織物「仙台平」とGUCCI がコラボレーションした限定バッグ発売。売り上げの全額が復興支援に寄付された。

（資料作成協力：宮城県農産園芸環境課）

ブラジルの養蚕・製糸の現状

一般財団法人大日本蚕糸会蚕糸科学研究所

研究アドバイザー 木下 晴夫

1 はじめに

近年のブラジルの蚕糸情勢は大きく変わり、日本から進出していた製糸会社の「フジムラ・ド・ブラジル」や現地製糸会社の「コカマール」が廃業をして、ブラタク製糸株式会社 1 社だけとなっている。そのブラタク製糸でも、2009（平成 21）年には「ドゥアルチーナ工場」を閉鎖して、現在、「ロンドリーナ工場」と「バストス工場」の 2 工場だけで製糸を操業している。

私は、平成 27 年 10 月 13 日から 10 月 27 日までの 2 週間、ブラタク製糸からの要請により製糸技術の診断指導を行ったので、ブラジルの蚕糸状況について報告する。

ブラタク製糸のあるロンドリーナ市はサンパウロ市の西方 540km に位置し、ブラジル南部パラナ州第 2 の都市で人口は約 50 万人、パラナ州北部にある経済の中心都市として発達した街で、市名は小ロンドンという意味から名付けられたとのことである。一方、バストス市はサンパウロ市から西北西 550km の高原地帯に位置した人口 2 万人のサンパウロ州の小都市で、日本人を中心に発展した街である。



ロンドリーナ市とバストス市



ロンドリーナ工場



バストス工場

2 ブラタク製糸（株）の設立

1927（昭和2）年に、日本政府の移民政策に沿って海外移住組合連合会が組織されたが、その翌年にブラジル側現地代行機関としてブラジル拓殖組合（いわゆるブラ拓）が設立され、これがブラタク製糸のはじまりである。1940（昭和15）年9月にブラ拓から製糸部門が分離独立してブラタク製糸有限会社が誕生し、その後1956（昭和31）年11月に天野賢治氏と谷口章氏の両名によってブラタク製糸株式会社が設立され、現在に至っている。

3 ブラジルの養蚕地帯と気候

ブラジルの養蚕地帯はパラナ州、サンパウロ州、マットグロッソ・ド・スル州である。

① パラナ州

州北部を南回帰線が横切り、また、州面積の約半分が海拔600 m以上の高原であるため、北部、西部及び海岸平野が熱帯性気候、中部が亜熱帯性気候、南部が温帯性気候となっている。州都クリチバ市は温帯性気候に属しているが、海拔が908 mあるため寒暖の変化の激しい高原性気候である。同市の夏季の平均気温は21.2℃、冬季は14.5℃、年間の平均気温は17.7℃、年間の降水量は1,650mmである。ブラタク製糸工場のあるロンドリーナ市は海拔が610 mで、夏季の平均気温は23.5℃、冬季は17.5℃、年間の平均気温は21℃、年間の降水量は1,633mmである。

② サンパウロ州

州都サンパウロ市の気候は温暖湿潤気候

に属し、一年間を通して変化し、12月～2月頃の夏は気温が30℃を超えるが、6月～8月頃の冬は10℃以下に下がり霜が降りることもある。なお、年間の平均気温は18.5℃、年間の降水量は1,460mmである。

③ マットグロッソ・ド・スル州

州都カンボグランデ市は海拔が600 mで、その気候はサバンナ気候に属している。一年中、気温が30℃を超えることもあるが、5月～7月頃は15℃以下に下がることもある。年間の平均気温は23.4℃、年間の降水量は1,470mmである。



4 ブラジルの蚕品種と稚蚕飼育

現在使用している蚕品種は昭栄系の日中四元交雑種（日・日×中・中）を基にブラタク製糸が独自に育成した実用蚕品種である。なお、バストス市内の製糸工場とは別の場所に蚕種製造施設及び蚕種改良研究施設があり、蚕種製造や優良蚕種の育種研究を行っている。

蚕飼育期間は8月中旬～5月下旬の10ヶ月間（連続40週間約80回掃き立て）養蚕飼育を実施している。

ブラタク製糸の直営稚蚕共同飼育所で2

齡幼虫まで桑葉飼育後、全養蚕農家へ3齡配蚕し、養蚕農家で5齡熟蚕まで飼育後、回転族で上族する。なお、ブラタク製糸直営稚蚕共同飼育所はパラナ州に3ヶ所、サンパウロ州に1ヶ所ある。

5 養蚕農家戸数及び繭生産量

養蚕農家はブラジル全体で約2,100戸ある。州別養蚕農家比率はパラナ州が88%、サンパウロ州が8%、南マットグロッソ（マットグロッソ・ド・スル）州が4%で、全国の総収繭量は約3,000トンである。

6 ブラタク製糸直営の桑園及び養蚕施設

ブラタク製糸はバストス市内に直営の約400ヘクタールの広大な桑園及び養蚕施設35棟を所有しており、年間350トン程の繭生産を目標として生産している。現在、更に新たな養蚕施設を建設中であった。



ブラタク製糸直営の桑園

7 原料繭調査及び口挽試験

入荷した荷口ごとに生切歩調査（生繭層量歩合）を実施するとともに、切歩、選除繭歩合、繭の大きさを指標として原料繭荷口に対してP E、P、Kの3段階のグレー

ド（繭格）を付ける。さらに、入荷した原料繭荷口はすべて口挽試験を行い、2リットル粒数、選除繭率、索抄緒効率、解じょ率、糸故障数（対1万m当たり）、繭糸長、糸歩（生糸量歩合）等を調査する。

8 ブラタク製糸の操業状況と主な製糸設備

ブラタク製糸には両工場合わせて約1,100人の従業員が勤務している。ロンドリーナ工場は年間の操業日数が300日、バストス工場は週休2日制で操業日数が約280日である。

操業時間は早朝5時から夜10時までで、従業員は2交代制で勤務している。

1) ロンドリーナ工場の主要設備

- ① 繭乾燥機（年間1,400トンの生繭を乾燥し、約235トン（3,900俵）の生糸を生産）

日本乾燥製1段バンド型2基

- ② 煮繭機：新增沢工業製V型加圧煮繭機1台、W型煮繭機1台、平行型煮繭機1台

- ③ 自動繰糸機：ニッサン自動繰糸機HRⅡ型22釜8セット、同14釜1セット、同6釜1セット、HRⅢ型22釜2セット



ニッサン自動繰糸機

2) バストス工場の主要設備

- ① 繭乾燥機（年間 1,600 トンの生繭を乾燥し、約 265 トン（4,400 俵）の生糸を生産）
日本乾燥製 1 段バンド型、大・中・小の 3 基
- ② 煮繭機：新增沢工業製 V 型加圧煮繭機 2 台、平行型煮繭機 1 台、小型平行型煮繭機 1 台
- ③ 自動繰糸機：ケイナン CEB225 型 24 釜 6 セット、同 22 釜 6 セット、特繰機 1 セット



1 段バンド乾燥機



乾燥機制御盤



ケイナン自動繰糸機

9 繭乾燥

いずれの工場も 1 段バンド型の乾燥機（6 ～ 10 室）を用いて、第 1 室の温度 105 ～ 110℃、第 2 室の温度（最高温度）123 ～ 130℃、最終室の温度 45 ～ 65℃、乾燥時間 6.5 ～ 7.5 時間と繭の性状に応じた条件設定を行い、乾燥程度を 41 ～ 42% 程度に仕上げていた。入荷原料繭の生切歩からみて、概ね妥当な乾燥歩合であると判断される。



蜂の巣倉庫

11 選繭

ロンドリーナ工場、バストス工場いずれも、自然光の選繭及び透過光の選繭の 2 段



袋詰めした乾繭

がまえで選繭を行っている。自然光の選繭で玉、薄皮、奇形、外部汚染繭等を、透過光の選繭で内部汚染繭等を除去する。



自然光（上）及び透過光（下）での選繭

12 用水

ロンドリーナ工場の製糸用水は湧水^{わきみず}を使用している。P Hが6.63、Mアルカリ度が24.3ppm、硬度が57.5ppmであり、製糸用水として大変良好な水である。一方、バストス工場は用水として河川水（貯留槽に溜めて凝集沈殿させた水）を使用している。P Hが7.2、Mアルカリ度が22.6ppm、硬度が35.3ppmと良好な水質ではあるが、水量不足のために、煮繭用水には井水^{いどみず}（P H：6.8、Mアルカリ度：23.0ppm、硬度：48.0ppm）を混合し、また繰糸用水には繰糸排水から油分や汚れを除去した還元水を混合して使用している。

一般的にインドや中国の製糸用水は硬度成分が極めて高いという大陸型特有の水質であるが、大陸にあるブラジルの水が日本に近い水質であることに驚いた。

13 煮繭

いずれの工場も進行式V型蒸気煮繭機を使用し煮繭を行っている。煮繭工程で浸漬^{しんせき}—触蒸^{しよくじょう}—浸透—熟成—調整^{ぎやくしん}—逆浸の各部分は一般的な温度配置であり、煮繭時間は21～23分であった。なお、V型煮繭機の特徴、繭層のエントリサクション（吸水）、空気の使い方、蒸気・空気・水の熱伝達速度の違い、容器内の繭が煮繭各部の設定温度と平衡になるための接触時間等について指導を行った。



進行式V型蒸気煮繭機

14 繰糸

ロンドリーナ工場はニッサン自動繰糸機HR型の移動給繭方式の繰糸形態で、バストス工場はケイナン自動繰糸機の固定給繭方式の繰糸形態で、受注先の要望に応じて10デニールから2500デニールまでの多種多様な高級生糸を生産している。

いずれの工場も高品位生糸の生産のために、①不良繭の除去 ②抄緒部での正緒繭率向上 ③抄緒部及び給繭機内の繭量の適正化 ④給繭機内の正緒繭率向上 ⑤接緒効率の向上 ⑥繰糸機及び周囲の清掃を繰糸作業の基本理念として従業員に徹底している。

ロンドリーナ工場の繰糸調査結果を以下に例示する。

- ① 22 釜自動繰糸機 8 セットを稼働。
- ② 索抄緒効率 74 ～ 85 %、抄緒部・正緒繭待機部・給繭機内の繭量が適正。
- ③ 給繭機内の正緒繭率は極めて良好。
- ④ 1 台の給繭機が片側 11 釜を通過する間に接緒補給する正緒繭数は平均で 7 粒



煮繭容器内の乾繭

であった。また、有効接緒効率 92.3 %、対釜有効接緒回数 18 回と極めて少ない。

1 台の給繭機に必要な正緒繭数は繰糸機片側通過で接緒された 7 粒から計算すると 25 粒であり、概ね 25 粒前後を保っている。

- ⑤ 落繭分離器における繰了繭比率すなわちビス（蛹しんから蛹、脱皮殻を除いたくず）になる比率は 70 % と極めて良好である（一般的に繰了繭比率 65 % 以上なら良）。

- ⑥ ビスのむけは極めて薄く揃っている。



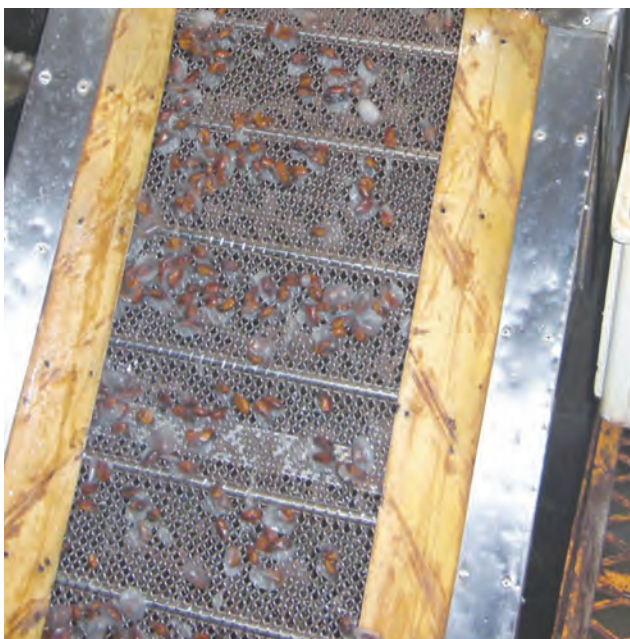
正緒繭待機部



給繭機内の繭



繰糸状況



ビスの状態

⑦ 糸故障数は生糸糸長 10 万 m 当たり 21 回とやや多い値ではあるが、小孔径の集緒器を使用していることを考慮すると特に問題はない。故障内容は、^{うすかわと}薄皮飛び付き節、^{ぶし}ずる節、^{ぶし}剥離節、^{はくりぶし}節詰り等と多様な節が見られ、これらは原料繭の複数合併による影響のためである。

15 揚返工程



揚返機

16 セリプレーン検査

^{そうせいきいと}繰製生糸の工場内でのセリプレーン検査の結果、^{こぶし}小節及び^{だいちゅうぶし}大中節成績ともに良好であり、大中節点は 98 点以上であった。



セリプレーン検査

17 まとめ

今回、ブラタク製糸の工場診断を行った結果は以下のとおりである。

ロンドリーナ工場及びバストス工場共に操業状態は極めて良好であり、繭処理技術上の大きな問題点は認められない。工場内の清掃も細部まで行き届いているとともに、工務の各種データの調査及び収集も行われ良く管理されている。また、大中節成績等の生糸品質に関してもそれぞれ工場の目的格^{もくてきかく}以上の成績であり問題は認められなかったが、更なる工務成績向上のために原料繭の合併方法や煮繭を中心とした繭処理技術の指導を行った。世界的な不況の中で

生糸ユーザーの要望に応えるために、ブラタク製糸では優良蚕品種の育成、優良桑の改良や桑収穫の自動化、製糸技術の向上等について従業員が一丸となって努力していることが伺われた。現在では見られなくなってしまったが、日本の製糸が最盛期であった昭和 40 年代の活力ある製糸工場をブラジルで見ることができた。

日本が明治以来 150 年の長きに渡って構築してきた「世界に冠たる蚕糸技術」が、日本から遠く離れた異国の地で維持継続されていることに驚きを感じるとともに、この優れた技術が将来にわたり継承され、更に発展することを期待するものである。

重要文化財に指定された旧新町紡績所

— わが国初の絹紡績工場 —

東京産業考古学会

副会長 平井 東 幸

平成 27（2015）年 7 月に国の重要文化財と史跡に指定された群馬県高崎市の旧新町紡績所は、信州大学繊維学部けんしぼうせきの絹糸紡績設備（No.47（2016 年 3 月号））及び長野県上田市の絹糸紡績資料館（No.43（2015 年 7 月号））とともに、わが国の絹糸紡績の発展を今日に伝えるまことに貴重な産業遺産である。とくに、「明治期の絹糸紡績工場唯一の遺構いこう」であり、現在は、旧鐘紡株式会社の後継企業であるクラシエフーズ株式会社の現役食品工場であることもあってか、一般公開はされていない。今回、残念ながら取材も叶わなかったが、文化庁、

群馬県、高崎市等の公表された文献資料をもとに、以下に紹介します。

5 棟が国の重文に指定

昨年（平成 27 年）重文に指定された経緯について、文化庁の文化遺産データベースから引用すると、次の通り；

「富岡製糸場から 5 年後の明治 10（1877）年に明治政府が設立した絹糸紡績工場である。佐々木長淳ささきながのぶを総括とし、ドイツ人グレーフェンの指導を受けながら大工の山添喜三郎やまぞえきさぶろうら日本人の手で建設された。明治 42（1909）年まで操業を続け、その間



写真 1：倉庫の外観（写真提供：奥原一三氏、以下同じ）

工場の増築や建物の新築が図られてきた。
工場本館のコの字形切妻造^{きりつまづくり}屋根部は官営期の工場部分で、独特なトラス（三角形を基本とする構造）などに洋風建築の技術と日本在来の技術の併用が見られる。^{のこぎり}鋸屋根の増築部、煉瓦造^{れんがづくり}の機関室や倉庫（写真1、2）は、明治期の紡績工場の発展形態を示している。

新町紡績所は、希少な木造の工場建築がほぼ完全な規模で残り、明治初期の建築技術を良く示しており、高い歴史的価値がある。明治期の絹糸紡績工場唯一の遺構であり、絹糸紡績業の発展の過程を示すものとして、高い学術的価値が認められる」と高く評価している。

重文に指定された5棟の概要は以下の通り：

名 称	竣工年	摘 要
工場本館	明治 10（1877）	木造、 ^{さんかわらぶき} 棧瓦葺、6,573 m ²
修繕場	同上	木造、鉄板葺、327 m ²
二階家煉瓦庫 ^{れんがこ}	明治 27（1894）	煉瓦造、二階建て、 棧瓦葺、49 m ²
倉庫	明治 30（1897）	煉瓦造、棧瓦葺、294 m ²
機関室	明治 31（1898）	煉瓦造、一部地下1階、 鉄板葺、414 m ² 北面倉庫附属、木造、 棧瓦葺、71 m ²

資料：文化庁「文化遺産データベース」から作成

なお、このほかに、重文に準じる価値がある附指定^{つけどりして}として、煙突基礎（写真3）、煙突銘板、工務室、旧男工控室の4件が指定されている。



写真2：倉庫の外壁部分—上部にはイタリア風の装飾「ロンバルト帯（小アーチ）」が施されている。

また、重要文化財指定が答申された後の『広報・高崎』（高崎市、平成27（2015）年6月15日）の紹介記事によると、欧州の養蚕・製糸技術を視察した佐々木長淳ら日本人が中心となって設計・建設を手がけた初の近代工場。開業式典には、内務卿大^{おお}久保利通をはじめ大隈重信、伊藤博文らが列席した。まさに、産業振興のための国家的事業であった。現在はクラシエフーズ^{くぼとしみち}（株）が所有し、「その大部分を工場、事務所、倉庫等に使用している」としている。

現在、紡績機械類は全く残されていないが、この工場は、富岡が外人技術者によって建設されたのに対して、「わが国技師による、技術移植の初期の状況を知るうえで、貴重な遺構」である。さらに、「近代的な屑糸の紡績法を知らず、輸出にのみ廻されていた屑糸・屑繭を紡績するための模範施設として建設された」歴史的に意義のある

産業遺産であることに注目したい。

新町紡績所の歴史

この工場の歩みを振り返ると、明治政府が明治 10（1877）年に「内務省勸業寮屑糸紡績所」として開業した官営の絹糸紡績工場で、富岡製糸場の創業から 5 年後のことであった。『鐘紡百年史』（同社社史編纂室、昭和 63（1988）年）等によると、明治 15（1882）年には「新町紡績所」と改称、同 20（1887）年には三井家に払い下げられて、三越呉服部の「新町三越紡績所」に、その後さらに「三井新町紡績所」になった。明治 44（1911）年に鐘紡が新町紡績所を買収。その後、同工場は昭和 44（1969）年に絹紡績事業を中止。昭和 50（1975）年に食品工場に転換、その後、鐘紡の経営蹉跌を経て、現在はクラシエフーズ^{（株）}新町工場としてアイスクリームの製造を行っている。創業以来、140 年、幾多の変遷・・・経営主体の度重なる変更と増改築を経てきたが・・・よく今日まで往時の姿を留めつつ、しかも現役の工場として操業していることはまことに稀有である。

おわりに

この旧新町紡績所は世界遺産への登録を目指して長年、地元では努力を重ねてきた由。しかし紆余曲折があり最終的には世界遺産候補から落ちてしまったが、まことに惜しいことではあった。平成 27（2015）年に国の重文と史跡に指定されたのも当然であり、むしろ遅きに失した感すら否めな



写真 3：「カネボウの大煙突」として親しまれた煙突の基礎部分

い。

ともあれ、これだけの価値のある産業文化財を企業が長年にわたり保存しながら活用されてきており、しかも今回の国の重文指定に同意されたことには、歴代の所有者、関係者のなみなみならぬ努力と理解があり、大いに敬意を表したい。現役のアイスクリーム工場が国の重要文化財に指定された例は他にないが、それだけに、現役の産業遺産の保存と活用と、その公開の在り方には難しい課題があると感じた。

なお、関係者におかれては、文化財保護法の趣旨に従い、できるだけ公開するように努力して頂きたいと思います。

今回、取材が叶わなかったのも、公表されている資料によった。以下にそれを記す。

①文化庁HP：文化遺産データベース

-
-
- ②『群馬県近代化遺産総合調査報告書』
(平成4(1992)年 群馬県教育委員会)、11 pにわたり写真・図面を含めた詳細な調査結果が掲載されている。
- ③「旧新町紡績所が国の重要文化財に」
(『広報・高崎』(高崎市、平成27(2015)年6月15日))
- ④『鐘紡百年史』(昭和63(1988)年 鐘紡(株)社史編纂室)
- ⑤『鐘紡新町工場90年史』(平成元(1969)年)

最後に、関係資料と写真を提供頂いた奥原一三氏に厚く御礼申し上げます。

- 名 称：旧新町紡績所
現在はクラシエフーズ株式会社
新町工場
- 所在地：群馬県高崎市新町 2330
- 最寄駅：J R 高崎線新町駅
- 見 学：非公開のため不可

蚕の孵化と毛

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

ちさんきょうどうしいくじょ 稚蚕共同飼育所

五月になると養蚕農家では蚕を飼い始める。春蚕期しゅんさんきの始まりである。とは言え、養蚕農家で蚕の卵から孵化ふくわさせることは殆ど無い。多くの養蚕農家ではそこそこ育った3齢位の蚕から飼い始める。では、卵～孵化～稚蚕（1齢～3齢までの蚕）はどうしているかと言えば、稚蚕共同飼育所で孵化させ、飼育されている。ここでは技術者の指導のもとで専用の飼育施設で大量飼育がおこなわれている。養蚕農家はJA（農業協同組合）に「今年は〇月〇日から●箱飼育するから」と頼むと、JAはその指定された日に3齢の蚕を稚蚕共同飼育所から運んできてくれる（1箱＝2～2.5万頭とう）。このように農家に蚕が運ばれることを配蚕はいさんと言う。養蚕独特の言葉の一つである。稚蚕共同飼育所では、徹底した消毒、稚蚕飼育に適した温湿度管理がなされているので、蚕病が減り、作柄が安定する。また、養蚕農家個々で飼育することに比べて飼育経費が削減され、また、稚蚕飼育の間に他の農作業に従事できるなど利点が多い。戦前から稚蚕共同飼育所が作られ始め、昭和30年代から数が増えていき、昭和50年代に

はほぼすべての養蚕農家の稚蚕が稚蚕共同飼育所で飼育されるようになった。しかし、養蚕農家が減少するとともに各地の稚蚕共同飼育所も閉鎖されてしまった。現在、東京では稚蚕共同飼育所が無く、群馬県の稚蚕共同飼育所で稚蚕が飼育され、軽トラに乗せられて半日かけて東京の養蚕農家に配蚕されている。結構、手間がかかるようになってきたので、最近では稚蚕共同飼育所の閉鎖に伴って自分で飼育する養蚕農家が増えているようである。

さいせい 催青

前年に産下された卵は野外では冬が来るまで休眠して発育を止めている。そして冬の寒さに晒さらされると前号で書いたように卵の中で“samui”という遺伝子が発現して休眠が破れる（“samui（サムイ）”遺伝子は2001（平成13）年柳沼利信名古屋大学名誉教授が発見、名付け親）。休眠が破れると発育出来るようになるが、気温が低いのでゆっくり発育する。桑の葉が出る頃、丁度孵化してくる。養蚕農家で飼われる蚕の卵は蚕種屋さんで作られ、保護されている。大きな冷蔵庫で12月末から翌年の孵化の

2週間位前まで冷蔵される。冷蔵庫から出して、25℃の恒温器で保護すると10日位で^ふか^かで孵化してくる。

蚕の卵は孵化直前に黒茶色から青く色が変わるので（図1）、蚕の卵を孵化させることを「催青」と言う。これも養蚕独特の言葉である。

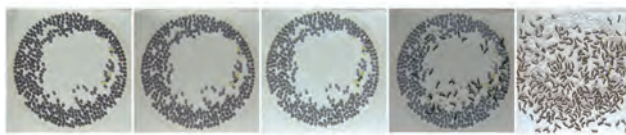


図1：蚕の卵 左から孵化3日前、孵化2日前、孵化前日、孵化（初発日）、孵化2日目
粒々が蚕の卵、黒く細長いものは孵化したばかりの幼虫。

産卵

ちなみに図1は1頭の雌蛾が産んだ卵であるが、丸く産卵している。これは母蛾が^ぼが^がお行儀が良くて丸く産むのではなく、^{がりん}蛾輪という枠の中に雌蛾を入れて、その中で産むためである（図2）。このように産卵させるとどの卵がどの母蛾の産んだ卵かわかる。蚕には^{びりゅうしびょう}微粒子病という病気がある。微粒子病は非常に危険な病気であり、この病気によって150年位前にヨーロッパの養蚕は大全滅している。微粒子病は卵を通して母蛾から子に伝染するので母蛾の病気の有無を調べて、母蛾が病気を持っているならその卵を廃棄すれば病気を予防できる。そこで、このように1蛾ずつ卵を産ませている。また、子の両親が分かると遺伝などの研究がしやすい。



図2：蛾輪の中で産卵する蚕蛾

はいし 胚子の発育

卵の殻は半透明なので卵の中がぼんやり透けて見える。最初は黒茶色の細胞の膜に包まれているので黒茶色をしている（図3、黄緑矢印1）。黒茶の膜に網目状の模様が見えるが、その網目一つ一つが細胞である。この細胞の膜の中にまだ蚕の形になっていない半透明の胚子が入っている。この胚子が発育して蚕幼虫の形になってくると黒茶の細胞の膜を食べてしまう。そして、まず頭に黒く色が着くので卵の一端に黒い点が付いたように見える（図3、緑矢印2）。孵化1～2日前には体が黒く色がついてくるので全体が青く変わる（図3、青矢印3）。中の幼虫は黒いのだが卵の殻を通してみると青く見えるようだ。

蚕種屋さんや研究室では25℃の恒温器があるので、だいたい孵化日が計算できるが、恒温器が無い小学校や一般家庭で卵を孵化させる場合、卵を室内に置いて孵化まで待つわけだが、室温は季節によって大きく変化するので孵化日がいつになるのか分からない。春や秋では室温は25℃より低いためゆっくり発育するので10日以上かかる。夏は25℃より高ければ10日より短

くなる。いつ孵化するか分からないので、卵の色が黒茶から変わって青く変わったら孵化直前、孵化の目安になる。孵化日を遅くしたい場合、温度の低い所へ、早くしたい場合、暖かい所に卵を置いておけば良い。ただし、早くしたいあまり 30℃を越えるような所に置くと卵が死んでしまうので注意。夏に直射日光の当たる所に置くとあっという間にゆで卵になってしまう。ゆで卵は孵化しません。

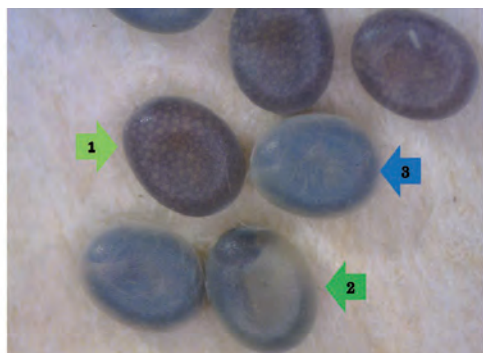


図3：蚕の卵 黄緑矢印（1）：黒茶の細胞の膜が透けて見える卵、
緑矢印（2）：頭が黒く着色した卵、
青矢印（3）：幼虫の全体が黒く着色した卵

孵化

朝方、蚕は卵から孵化してくる。数日前から昼の明るさと夜の暗さ（日長）の繰り返しを覚えていて、朝、光が当たるとそれに合せて卵の殻を溶かし、食べて中から出て来る。孵化しなかった卵は翌朝に孵化してくる。

孵化した蚕は蚕座^{さんざ}という蚕を飼う場所に移される。図4は江戸時代の喜多川歌麿^{きたがわうたまろ}の浮世絵「女織蚕手業草^{じょしよくかいこてわざぐさ}」の12枚つづりの最初の一枚目のものである。昔から孵化した蚕を鳥の羽で掃くので、蚕を飼い始める

作業を「掃立^{はきだて}」とこれまた養蚕用語で呼ばれている。

孵化したばかりの蚕は黒く蟻のようなので「蟻蚕^{ぎさん}」と呼ばれたり、毛が生えているので「毛蚕^{けご}」と呼ばれている（図5）。なかなか良いネーミングだと思う。英語だと“newly hatched larva（新しく孵化した幼虫）”。そのままで少々つまらない。孵化したばかりの幼虫は1mmほどだが毛が生えていること、体が黒いこと以外は頭の形、体の節の数、足の数等々、蚕の形をすべて整えており、このまま大きく育っていく。



図4：喜多川歌麿「女織蚕手業草」そのき鳥の羽で孵化した幼虫を蚕座に移している（掃立）



図5：孵化直後の幼虫（蟻蚕、毛蚕）棒：1mm
左：横から見た図、右：上から見た図

けふる 毛振り

孵化したばかりの蚕を飼い始めて数日経つと毛が無くなり、体色が白くなる。毛が抜けたように見えることから「毛振り」と呼ばれている。順調に蚕が育っている目安になる。孵化直後、皺皺^{しわ}だった皮膚が成長するとともに伸びて平らになるため体が白くなるようである。また、毛が抜けたように見える（図6 2日目）。



図6：孵化後の發育、左より孵化当日、1日目、2日目（毛振り）

幼虫の毛

毛が抜けたように見えるが、実はよくよく幼虫の皮膚を見ても毛が生えている。図7は大きく育った5齢幼虫の表面であるが、茶色い点から短い毛が見える。図8、9は皮膚の拡大図である。腹脚^{ふつきやく}にはそこそ長い毛が生えている。確かにごくごく短い毛がまばらだが表面を覆っている。しかし、蚕の毛はあまりに短く、ほとんど肉眼では見えないので「毛虫」ではなく、「芋虫」とされている。しかし、「毛虫」と「芋虫」の境はどこなのだろうか？ 禿と禿じゃないの境はどこなのだろうか？ 薄毛の筆者も気になるところである。

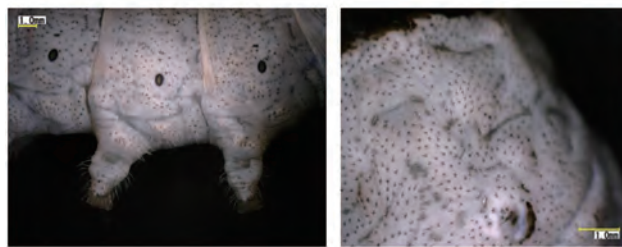


図7：幼虫の皮膚
茶色の点が見える。



図8：幼虫の腹脚の拡大図
腹脚にはやや長い毛が生えている。棒：1mm



図9：幼虫の皮膚の拡大図
茶色の点から短い毛が生えている。棒：1mm

■横山 岳（よこやま・たけし）のプロフィール
東京農工大学農学部
生物生産学科蚕学研究室
〒183-8509：東京都府中市幸町 3-5-8
TEL：042-367-5681
E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp
HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko

高格・高品質生糸繰製計画（6 A プロジェクト）

一般財団法人大日本蚕糸会蚕糸科学研究所

所長 清水重人

1 はじめに

現在 50 の提携グループによる蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会が組織され、国内各地で純国産宝絹（takaraginu）展を開催するなど純国産絹製品の PR 及び需要増進活動を積極的に行っています。

純国産絹製品は高額になることもあり、消費者の中には純国産絹製品は高品質であるというイメージを持っている人が多く、その期待に応える必要があります。しかし、経糸用 6 A 格生糸は輸入に頼っているのが現状で、国内では高格・高品質生糸は技術的にできないのではないかという疑問を抱いている方もおります。

生糸品質で常に問題となるのは、昔も今も「^{ふし}節」と「^{せんど}織度むら」で、この 2 項目で高成績を出すことが高格・高品質糸づくりの重要な条件となります。蚕糸科学研究所では、有限会社ハラダと共同で節と織度むら対策として、スラブキャッチャー（節検出装置）及びロードセルセンサー（荷重変換器）を組み込んだ万能型自動繰糸機（※ 1、写真 1、シルクレポート No.30 参照、特許第 5413758 号）を開発することで節と糸むらへの対応を図ってきました。この

度、万能型自動繰糸機で開発した装置及び技術を、従来の HR 型自動繰糸機（※ 2）に組み込み製糸工場に導入することで、国内における高格・高品質生糸繰製の可能性に関する実証試験を行いましたのでその概要について紹介します。

※ 1：万能型自動繰糸機

Universal Type Automatic Silk Reeling Machine

※ 2：H R 型自動繰糸機

High Speed Type Automatic Silk Reeling Machine



写真 1：万能型自動繰糸機の外観

2 節対策

我が国で開発され世界に普及した HR 型自動繰糸機では、繰糸工程における節対策として、「^{しゅうちよき}集緒器（後述参照）」の^{こうけい}孔径を小

さくすること及び^{あげかえしこうてい}揚返工程でスラブキャッチャー（乾燥環境対応型）を使用することで対応しており、これは全世界的に高格・高品質生糸生産において行われている対策です。しかしながら、国内の製糸工場では年配の作業員が多いこともあり、集緒器の孔径を小さくすると、眼鏡をかけても孔に糸を通すことが容易でなく、作業能率上大きな障害となっています。

その節対策として、万能型自動繰糸機では、揚返工程で使用しているスラブキャッチャーを繰糸工程用として、高精度かつ「湿潤環境対応型」として改良開発するとともに（写真2）、スラブキャッチャーの節感知に連動したエアー制御による小枠^{こわく}ストップ機構も開発しました（（有）ハラダ、特願 2015-14523）。設定以上の大きな節は、小枠に巻き取らないことで節成績の向上を図ります。



写真2：スラブキャッチャーとロードセルセンサー

3 集緒器

集緒器は、瀬戸物製で中央に孔が空いており（写真3）、そこに糸を通します。孔

より大きな節があるとそこで詰まります。その時の張力をワイヤーで伝達し、小枠を停止する仕組みになっています。作業者はその節部分を取り除き、糸^{つな}繋ぎをして小枠を再回転させることが主な作業となります。孔の開け方は、古くは馬の尾の毛で開けていたのですが、現在では機械的に開けています。ただし、^{うわぐすり}釉薬による仕上げ工程で孔の形状が歪^{いびつ}になることが多く、新品入荷時でも検査をし、孔の形状や大きさ等の異常なものは除外することが重要になります。また、使用していると繭糸との摩擦で孔が大きくなるため、定期的な検査も必要となります。通常 21 デニール用の集緒器では約 200 ミクロンの孔としていますが、高格生糸向けに節点を向上させるため、さらに小さい孔径のものを作って使用しています。ちなみに、集緒器には、繰糸能率の向上を図る目的からスリット型のタイプも多く使われました（写真4）。これらのタイプは、溝に沿って外側から孔へワンタッチで糸を挿入できるため、作業能率は格段に向上しますが、大きめの節も溝からすり抜けてしまうため、節点の向上は望めません。そのため、原料繭が少なくなってきた今日では、どの製糸工場でも能率



写真3：集緒器
28 デニール用（左）と 42 デニール用（右）

よりは品位を重視する傾向にあり、作業が大変になるリスクを負ってでも集緒器を使っています。

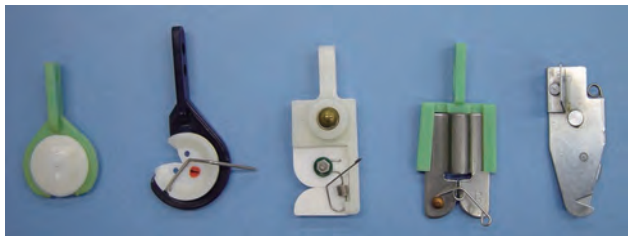


写真4: 各種のスリットタイプの集緒器
(左端を除く)

4 織度むら対策

織度むら対策として、万能型自動繰糸機ではロードセルセンサー（写真2）による織度感知機構を開発しました（（有）ハラダ）。このロードセルセンサーは、繰糸中の走行生糸との僅かな接触時の張力を感知し、生糸の織度に置き換える機構となっています。そのため、7～8 デニールの超極細生糸の繰糸や超低張力での繰糸が可能になる等の特徴をもつ他、感度の上下限を設定することで、織度の太、細の規格外の糸の除外が可能になります。しかしその半面、感度が敏感なため、早朝と日中の温度差、原料品種の違い、繭の煮熟度の違い等環境条件や繰糸条件等の変化に対応して自動修正する「キャリブレーション（校正）」調整が難しく、実験室レベルでは対応が来ていますが、製糸工場の現場レベルでの調整研究は道半ばの状態となっています。そこで、工場現場対応を重点とする観点から、ロードセルセンサーに代わる新しい織度むら対策としての織度感知方式として「チタン製織度感知器」を開発しました（（有）

ハラダ、詳細は後述）。

5 織度感知器（従来型）

織度感知器は、自動繰糸機に於いて、生糸の織度をコントロールするための重要な部品です。主流はゲージ式でガラス2枚をマイラーと呼ばれる超極薄製の特殊フィルムを重ねて挟んで合わせたもので、マイラーによりできた間隙を糸が通ることで、走行中の生糸による摩擦抵抗を感知します。生糸が細くなり摩擦が小さくなると連動したカムが噛み、レバーが作動して1粒の繭を付け足す仕組みになっています。このような接緒要求方式を細限接緒方式と呼んでいます。ガラス間の間隙は目的とする生糸織度に応じてマイラーの厚みを調整しますが、マイラー（特殊フィルム）自身に厚さのむらがあること、ガラス板を締め付ける力加減によりマイラーの厚みが変わることなどから、感知器の固体間誤差が出やすくなり、織度偏差が悪くなります。そのため、ガラス板を締めるときは専用のトルクレンチ（写真5）を用い、一定の力で締め付けるようにして固体間誤差をなくすようにしています。ガラス製のため、経年使用すると、摩耗により間隙が変化したり、破



写真5: 織度感知器用トルクレンチ

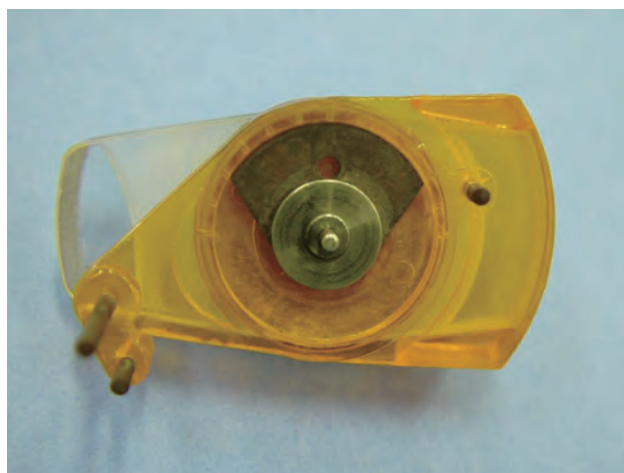


写真6: 繊維度感知器（丸形（左）と矩形型（右））

損による不良品が出たりすることなどから、新品の補充に加え、定期的に専門業者による組み替え等のメンテナンスが必要となります。繊維度感知器の感度管理では、専用の1条繰りの簡易繰糸機を用います。正確な目的繊維度を検出できる「親感知器」を用意し、個々の感知器と縦に直列に並べ、糸を挽きながら、適合かどうかを判定します。不適合品についてはマイラーを調整して適合品にしますが、結構大変な作業です。間隙の設定は、21 デニール用の場合、計算式により 61.5 ミクロンに調整します。形状では丸形のものや矩形のものがあり（写真6）、材質ではセラミックで製作した研究もありました。

6 チタン製繊維度感知器の開発と特徴

チタンは軽く、耐蝕性に優れ、摩耗や破損が少なく、たわみ対抗力（ばね力）は鉄の約2倍ある素材です。最近では、チタン材に対する高度な精密加工技術及び高精度の研磨技術が進んでいます。そこで、従来型繊維度感知器のガラス板をチタン板（JIS2

種）に替えることとし、片方のチタン板に従来のマイラーの厚みに相当する段差を直接付けて加工し、平板と合わせて組立て、チタン製マイラーレス繊維度感知器として開発しました（図1、（有）ハラダ、特願第2014－156947号）。加工時の切削温度、切削油などの検討を重ね、糸との接触面にはミクロン単位で平衡度を出すための加工技術及び最新の水中平面研磨機による表面平滑化研磨技術を利用し、ガラスと同様の均一な接触面に加工しました。直接段差加工することにより固体間誤差がほとんどなくなり、分解組み立てが容易で専用工具も必要なくなりました。チタンはガラスより比重が大きい材質ですが、感知器重量が大きくなると感知回転角度が小さくなる

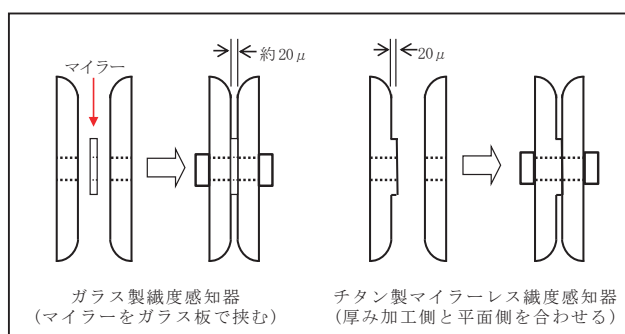


図1 繊維度感知器の違い

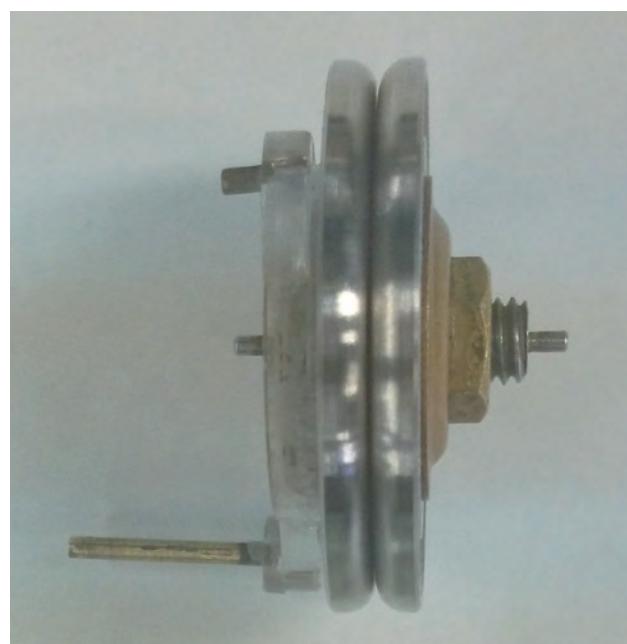
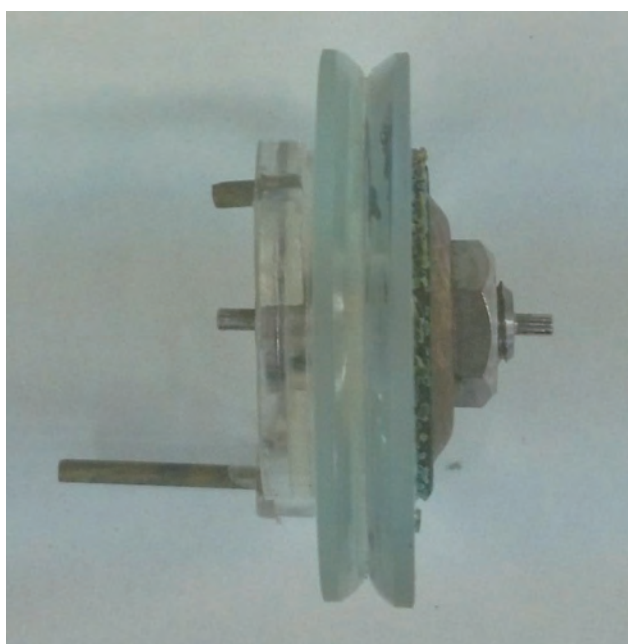


写真7:織度感知器（ガラス製（左）チタン製（右））

ため、環境や繰糸条件の影響を受けにくくなる（「ニッサンHR3型自動繰糸機」、日本シルク学会参照）という利点もあります。また、破損や摩耗にも強いいため、長期間の使用が可能となる等メンテナンスフリーの部品と言えます（写真7）。

7 「新宿シルク」ブランド構想

蚕糸科学研究所では、当所のHR型自動繰糸機2釜40緒に、上記のスラブキャッチャーとそれに連動したエアー制御による小柵停止装置及びチタン製織度感知器を組み込むことにより、高格・高品質用自動繰糸機（UE型自動繰糸機※2）として改良開発しました（（有）ハラダと共同開発）。UE型自動繰糸機における繰糸工程の概要図を図2に示します。蚕業技術研究所を中心に飼育された国産繭を用い、当所繰製技術による高格・高品質生糸を「新宿シルク」ブランドとして繰製し、高品質の商品試作

試験を行った上で、実際の工場で実証試験を行うとともに関連した一連の技術体系の構築と技術の継承を図ることを目的とする「新宿シルク」ブランド構想を計画しました。

※2：UE型自動繰糸機
Universal & Excellent Type Automatic Silk Reeling Machine

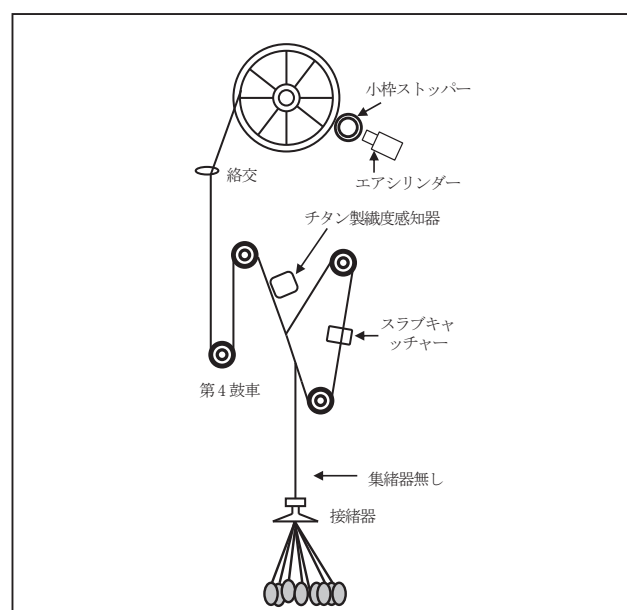


図2 繰糸工程図
碓氷製糸農業協同組合に導入した
UE自動繰糸機6釜タイプ

8 「新宿シルク」のいわれ

平成 26 年 6 月、富岡製糸場と絹産業遺産群が世界遺産に登録されました。明治 5 年に操業開始された富岡製糸場は、高品質生糸の生産が目的の一つでした。当時、明治政府は製糸技術開発に力を注ぐ中で、製糸教育のための施設として内務省勸業寮試験場を設けました。明治 7 年 3 月、勸業寮^{しよかつ}所轄内藤新宿試験場内に「^{さんぎようしけんがかり}蚕業試験掛」が設置され、洋式繰糸機を中心とした製糸の試験研究が始まりました。その担任として任されたのが、明治 6 年、オーストリア・ウィーンで開催された第 5 回万国博に出張し帰国した^{ささきながのぶ}佐々木長淳氏と、同じくウィーン万博に出張し、イタリアで製糸や撚糸等の技術を習得した^{まるなかぶんすけ}圓中文助氏で、試験研究とともに伝習生の養成を行いました。この内藤新宿試験場における製糸の研究は僅か 5 年の短い期間でしたが、多くの試験研究が行われ、ここで養成した修業生はその後の国内蚕糸業の発展に多大な貢献をしました。それから 140 年余り経った今日、蚕糸科学研究所は内藤新宿試験場と同じ新宿の地にあり、現在では国内唯一の試験研究機関として、日本の製糸技術の維持発展に努めています。そして、同じ新宿の地で新しく開発した繰糸機と繰製技術により繰製した高格・高品質生糸を「新宿シルク」としました。

9 製糸工場での実証試験(6A プロジェクト)

開発した UE 型自動繰糸機の性能の検証試験及び繰製生糸の性状調査を、蚕糸科学

研究所で開始しましたが、大日本蚕糸会の方針として、同時に現場の製糸工場における実証試験を行うことになりました。導入先工場の選定については、①生産規模が最も大きく提携グループの主要生産拠点となっていること、②当所との距離が近いこと等の理由から碓氷製糸農業協同組合を選定しました。導入に際し大きな問題がありました。現在の国内においては、HR 型自動繰糸機の重要な新品部品がほとんど無く、新品の自動繰糸機を導入することはできません。従って、使われずに余っている中古の繰糸機から部品取りし再利用するしか方法は無いのですが、リニューアルの対象となった碓氷製糸農業協同組合の 2 号機 6 釜タイプの繰糸機は、長く使用されていないため、腐食と摩耗が激しく、高格・高品質生糸生産用の繰糸機に仕上げるには相当の困難が予想されました。^{ふじむらせいし}藤村製糸など最近廃業した製糸会社に繰糸機本体や部品などが在庫されていないか当たりましたが、総て廃棄した後でした。改修に携わった(有)ハラダでは、リニューアルが難しいほとんどの重要な部品については、図面を起こし、一部を一般メーカーに依頼し、一部は自社内で加工して対応しました。そのため、改



写真 8: 完成した UE 型自動繰糸機
(碓氷製糸農業協同組合)

修工事は平成 26 年の 10 月に始まりましたが、完成したのは 27 年 10 月で 1 年かかりました。完成した UE 型自動繰糸機 6 釜タイプの外観を写真 8 に示します。

10 製織試験及び製品試作

UE 型自動繰糸機による蚕糸科学研究所での検証試験では、6 A 格相当の節と織度むらの成績を収めました。さらに 6Kg 余の生糸を繰製し、(株) マルシバの木下社長にお願いし、新潟県五泉市の江口機業株式会社で製織試験を行いました。五泉の産地では、生糸を撚ることなく経糸として使うため、生糸に欠点があるとそれがすぐにわかるとのことです。江口機業(株)では、通常はブラジルの 6 A 格相当生糸を使用しているとのこと。試織の結果はブラタク 6 A 格相当生糸(27 中)と遜色ないとの評価を得ました。現在、男性用羽織ときものを試作中です。

11 終わりに

現在、国内産繭の不足を憂慮する声が各方面から聞こえる中で、大日本蚕糸会では、26 年度からの繭代補填に加え、27 年度か

ら繭増産対策、養蚕担い手対策等の新規事業を講じています。国内産繭の減産に歯止めをかけ、増産に結びつけることが目的ですが、すでにその成果が一部出始めています。一方では、蚕具のメーカーの廃業により、毛羽取り機等の入手が困難になってきており、蚕具類のリサイクルのための対策も行っています。収穫された国内の貴重な繭を生糸に加工する製糸においても同様に、重要な機械部品は、新品部品はおろか故障の際の部品の手当もままならない状況にあります。また、HR 型自動繰糸機に精通した機械整備技術者の後継者の問題が深刻化しており、今後の憂慮すべき課題となっています。幸い、今回の 6 A プロジェクト遂行により、現在国内で保存されている貴重な中古繰糸機を活用し、高格・高品質生糸対応の繰糸機を新品同様に仕上げる技術はほぼ確立できたと考えています。

先人から受け継いだハードとしての製糸機械に関する技術とともにソフトとしての繭乾燥から煮繭、繰糸、揚げ等の一連の製糸技術についても守り続け継承していくことが我々に課せられた使命と心得、研究業務に邁進したいと考えています。

イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
純国産絹製品の紹介	（田中種） 群馬県産繭生糸を使用した江戸小紋の着物と帯、ニット製品（おやすみ靴下・手袋、下着）などの展示。	<会期> 平成 28 年 5 月 9 日（月）～5 月 27 日（金）	<主催> ジャパンシルクセンター <会場> ジャパンシルクセンター 10：00～18：00 土、日、祝は、休館。 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 1 階 TEL：03-3215-1212 FAX：03-3214-1700
	（J S） 山梨県産繭を使用した薄絹の製品（布団、アウター、インナー）などの展示。	<会期> 平成 28 年 6 月 1 日（水）～6 月 28 日（火）	
第 73 回特別展「群馬県作家協会展～絹文化に想いを寄せて～」	近代産業の柱であった絹産業には、養蚕農家や製糸染織業者以外にも、必要な道具等を作る多くの「匠」が関わってきました。その「匠」の技を受け継いで創作活動をしている群馬県作家協会会員 13 名が「絹文化」をテーマに絵画、彫刻、工芸等それぞれの分野の技を駆使した作品を展示します。	<会期> 平成 28 年 4 月 16 日（土）～5 月 23 日（月）	<主催> 群馬県立日本絹の里 <お問合せ> 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1 TEL：027-360-6300 休館日：毎週火曜日
第 36 回企画展 「人形まんだら時代絵巻～寿三郎人形・辻村寿和コレクション展～」	着物の古布を使って人形を制作する世界的に著名な人形師辻村寿三郎氏の作品を展示し、寿三郎氏ならではの優美で妖艶な世界とともに、絹の素晴らしさを紹介します。	<会期> 平成 28 年 5 月 28 日（木）～7 月 11 日（月）	

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
企画展「キヌコレ」	かつて世界一の生糸生産地であった岡谷市が、文化服装学院ファッションテキスタイル科の学生にシルク生地（綾織地、オーガンジー、シャンタン）を提供し、学生が自由にデザインして洋服を製作しました。個性豊かな16点のシルクの作品をファッションショーの映像と併せて紹介します。	＜会期＞ 平成28年4月14日（木）～5月30日（月）	＜場所＞ 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8 TEL:0266-23-3489 休館日：毎週水曜日・祝日の翌日
平成28年度 シルク博物館春企画展「キモノの美—人間国宝田島比呂子の友禅—」	2014年に亡くなられた田島比呂子先生の友禅作品の制作過程をスケッチ、取材写真、下図、彩色大下図、試し染めなどを交えて紹介します。当館は友禅の第一人者として、人間国宝でもあった田島先生から多くの作品や仕事に関する資料を寄贈していただきました。寄贈は、田島先生の自分の仕事を公開し、参考としていただき、次の世代に友禅の仕事の様を伝えたいという遺志がこめられています。多くの方々にこの機会に著名な友禅作家の素顔を通して、日本の伝統あるキモノの美に触れていただきたいと願っています。	＜会期＞ 平成28年4月23日（土）から6月12日（日） ＜イベント＞（予定） (1) 友禅色挿し体験 5月29日（日）10:00～12:00 と 13:30～15:30 講師：生駒暉夫氏 (2) 試着体験 シルクのキモノを着てみよう 毎週土曜日 13時～15時 (3) シルクについてのワークショップ 5月31日（火）10:30分～12:00、13:30分～16:00 講師：下村輝氏	＜主催＞ シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター2階 TEL:045-641-0841 ＜お問合せ＞ 同上 ＜開館時間＞ 9:30～17:00 （入館は16:30まで） ＜休館日＞ 毎週月曜日 （祝日の場合は翌日） ＜後援＞ 神奈川県 / 横浜市文化観光局 / 神奈川新聞社 / tvk / NHK横浜放送局 / 横浜繊維振興会

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
内外シルク研究会	テーマ 「これからの蚕糸業をどう考えるか（問題提起と意見交換）」	<日時> 平成 28 年 5 月 12 日（木）14：00～16：00 <場所> 蚕糸会館 6 階第 1 会議室	<主催> 内外シルク研究会 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 中央蚕糸協会内 TEL03-3214-5777 <お問合せ> 同上
2016 まゆクラフト作品展	まゆの自然な造形美・質感を活かした独創性のあるまゆクラフト作品の展示と常設展示	<会期> 平成 28 年 4 月 14 日（木）～5 月 17 日（火）	<主催> 駒ヶ根シルクミュージアム 399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那 482 TEL0265-82-8381 <お問合せ> 同上 <開館時間> 9：00～17：00 <休館日> 毎週水曜日
第 1 回横浜絹フェスティバル	日本の絹の道の最終地であり、絹にまつわる数々の歴史的建造物、文化が残る「横浜」で地元繊維産業、商業関係者など企業、団体が連携協力して「横浜絹フェスティバル実行委員会」を立ち上げ、絹を通して歴史、文化、ファッションを見つめなおす新規地域イベントを市内各所で開催する。	<会期> 平成 28 年 4 月 22 日（金）～5 月 30 日（月） ・5/25～5/30「横浜絹の大祭典」（横浜高島屋） ・4/22～5/3「横浜ファッションウィーク」（赤レンガ倉庫） ・4/22～5/30「シルク入りスイーツ」（Hニューグランド、横浜インターコンチネンタル H、横浜ベイホテル東急、横浜ロイヤルパークホテル）	<主催> 横浜絹フェスティバル実行委員会 <お問合せ> 事務局：松村（株）内 横浜市中区住吉町 1-13 TEL：045-662-7500（代）

年月日	活 動 内 容 等
28.3.8	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る製糸業者との打合せ（群馬県）
28.3.10 ~ 28.3.11	群馬県内養蚕者情報交換会への参加（群馬県）
28.3.15	純国産絹マーク審査委員会（東京都有楽町 蚕糸会館）
28.3.16	稚蚕共同飼育所に関する意見交換会（東京都有楽町 蚕糸会館）
28.4.4	農林水産大臣主催「観桜会」において純国産絹製品展示（東京都）
28.4.5 ~ 28.4.6	茨城県養蚕研修会への出席（新潟県下）
28.4.19	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会総会（東京都有楽町 蚕糸会館）
28.4.20	群馬県養蚕担当者会議への出席（群馬県）



「観桜会」の純国産絹製品展示



2016 東京きものの女王の^{た が か お り}多賀香織さん

平成 27 年度第 6 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 27 年度第 6 次審査委員会を平成 28 年 3 月 15 日（火）に開催しました。今回は、19 者から申請があり、新規申請者 2 者 2 品目、使用許諾されている者の 3 者が製品の追加 4 品目、履歴の追加 3 者 6 品目、数量の追加 15 者 26 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、19 者 38 品目に対し、3 月 22 日（火）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) 片倉工業（株） 代表者名：佐野公哉 (担当者：伊藤弥生) 〒104-8312 東京都中央区明石町 6-4 ニチレイ明石町ビル TEL：03-6832-0276 表示者登録番号 215	ニット（靴下）	200 足	繭生産 JA 上伊那管内養蚕農家 製 糸 (株) 宮坂製糸所 撚 糸 (株) 高三商店 精 練 (有) 糊重 製 編 ニッティド（株）
(製品・履歴の追加) (株) 伊と幸 代表者名：北川幸 (担当者：北川幸) 〒604-8176 京都市中京区龍池町 448-2 TEL：075-211-2361 表示者登録番号 035	(履歴の追加) 白生地（表地）	5 反	蚕品種 松岡姫 繭生産 JA みちのく安達管内養蚕農家 製 糸 (株) 宮坂製糸所 製 織 (有) 大新織物
	白生地（帯地）	10 本	
	(履歴の追加) 白生地（表地）	30 反	蚕品種 松岡姫 繭生産 JA みちのく安達管内養蚕農家 製 糸 (株) 宮坂製糸所 製 織 織処 丸重
	白生地（帯地）	40 本	
	(製品の追加) 白生地（表地）	5 反	蚕品種 松岡姫・天蚕 繭生産 JA みちのく安達管内養蚕農家 信州大学 製 糸 (株) 宮坂製糸所 製 織 武井豊子
	白生地（帯地）	5 本	
(履歴の追加) (株) 西陣まいづる 代表者名：舞鶴一雄 (担当者：舞鶴一雄) 〒602-8446 京都市上京区五辻町 39 TEL：075-441-0001 表示者登録番号 112	先染帯地（袋帯） (金銀糸使用)	65 本	蚕品種 黄金三眠蚕 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 撚糸加工 丸八生糸（株） 染 色 にしき染色（株） 製 織 自社
(数量の追加) 柳崇 代表者名：柳崇 (担当者：柳崇) 〒154-0023 東京都世田谷区若林 5-29-19 TEL：03-3795-2917 表示者登録番号 042	先染反物	15 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 前橋市内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 撚 糸 自工房 染 織 自工房
	先染帯地	30 本	

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品・数量の追加) 草木染工房山村 山村多榮子 代表者名：山村多榮子 (担当者：山村多榮子) 〒192-0907 東京都八王子市長沼町 773-5 TEL：042-635-9968 表示者登録番号 044	(製品の追加) 先染帯地 (金銀糸使用) (数量の追加) 先染服地 (数量の追加) ストール	2本 15枚 50枚	企画 蚕品種 繭生産 製糸 撚糸 染色 絹の会 ぐんま 200 前橋市内養蚕農家 碓氷製糸農協 森田商店 自工房
(数量の追加) 手織り よおん 長嶺亨子 代表者名：長嶺亨子 (担当者：長嶺亨子) 〒904-0034 沖縄県沖縄市山内 3-12-18 TEL：098-933-1010 表示者登録番号 045	先染反物 先染帯地 ストール	2反 10本 30枚	企画 蚕品種 繭生産 製糸 撚糸 染色 絹の会 ぐんま 200 前橋市内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株) 高三商店 自工房
(数量の追加) 祝嶺染織研究所 代表者名：祝嶺恭子 (担当者：祝嶺恭子) 〒902-0078 沖縄県那覇市識名 1-17-15 TEL：098-832-2365 表示者登録番号 046	先染反物 先染帯地	5反 15本	企画 蚕品種 繭生産 製糸 撚糸 染色 絹の会 ぐんま 200 前橋市内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株) 高三商店 自工房
(数量の追加) (株) 龍工房 代表者名：福田隆 (担当者：福田隆) 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町 4-11 TEL：03-3664-2031 表示者登録番号 047	帯締 (金銀糸使用)	150本	企画 蚕品種 繭生産 製糸 撚糸 染色 組加工 絹の会 ぐんま 200 前橋市内養蚕農家 碓氷製糸農協 大貫繊維(株) 安田染工所 自工房
(数量の追加) からん工房 深石美穂 代表者名：深石美穂 (担当者：深石美穂) 〒907-0453 沖縄県石垣市川平 1175 TEL：0980-88-2459 表示者登録番号 048	先染反物 先染帯地	10反 25本	企画 蚕品種 繭生産 製糸 撚糸 染色 絹の会 ぐんま 200 前橋市内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株) 高三商店 自工房
(数量の追加) アトリエ ITO 伊藤峯子 代表者名：伊藤峯子 (担当者：伊藤峯子) 〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町 4-6 TEL：098-884-6321 表示者登録番号 193	先染反物 先染帯地	5反 25本	企画 蚕品種 繭生産 製糸 撚糸 染色 絹の会 ぐんま 200 前橋市内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株) 高三商店 自工房
(新規) 村江菊絵 代表者名：村江菊絵 (担当者：村江菊絵) 〒152-0031 東京都目黒区中根 1-6-20 TEL：03-3717-7678 表示者登録番号 214	先染帯地	12本	企画 蚕品種 繭生産 製糸 撚糸 染色 絹の会 ぐんま 200 前橋市内養蚕農家 碓氷製糸農協 (株) 高三商店 自工房

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)	
(製品・数量の追加) 渡豊工房 代表者名：渡辺豊一 (担当者：渡辺豊一) 〒990-0301 山形県東村山郡山辺町山辺 892-1 TEL：023-664-5405 表示者登録番号 190	(製品の追加) 先染ストール (数量の追加) 先染反物 (綾御召)	100枚 90反	蚕品種 繭生産 製糸 撚糸 精練染色 製織	錦秋×鐘和 JA みやぎ仙南管内養蚕農家 碓氷製糸農協 梅津撚糸工場 佐米染色(有) 自工房
(履歴・数量の追加) (株)丸万中尾 代表者名：中尾浩祥 (担当者：中尾浩祥) 〒526-0835 滋賀県長浜市室町180 TEL：0749-62-1660 表示者登録番号 028	(履歴の追加) 後染反物 (変り一越(手 染着尺・友禅、 色無地))	10反	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色 販売	ぐんま 200 JA 前橋市管内養蚕農家 碓氷製糸農協 南久ちりめん(株) (株)万葉しぎや (株)万葉しぎや
	(数量の追加) 後染反物 (変り一越・江 戸小紋)	60反	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色	ぐんま 200 JA 前橋市管内養蚕農家 碓氷製糸農協 南久ちりめん(株) (株)一会
	(数量の追加) 白生地 (変り一越(手 染着尺・友禅用))	19反	蚕品種 繭生産 製糸 製織 染色	ぐんま 200 JA 前橋市管内養蚕農家 碓氷製糸農協 南久ちりめん(株) (株)一会
(数量の追加) 織匠 万勝 代表者名：前田章 (担当者：前田健) 〒604-8267 京都市中京区鍛冶町173-1 TEL：075-257-5747 表示者登録番号 026	先染帯地 (袋帯) 先染帯地 (名古屋帯)	240本 150本	繭生産 製糸 染色	JA 佐波伊勢崎管内・ JA 赤城橋養蚕連絡協議会養蚕農家 碓氷製糸農協 自社
(数量の追加) (株)高島屋 代表者名：木本茂 (担当者：伊藤ゆ香) 〒542-8510 大阪市中央区難波5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	後染反物 (七五三)	11枚	繭生産 製糸 製織 染色	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) 美雲織物(株) (株)千總
	後染反物 (七五三)	10枚	繭生産 製糸 製織 染色	JA 那須南管内養蚕農家 松岡(株) (株)竹林 (株)千總
(数量の追加) (株)せんば呉服店 代表者名：吉川知岐 (担当者：吉川知岐) 〒660-0884 兵庫県尼崎市神田中通5-182 TEL：06-6409-4457 表示者登録番号 186	後染反物 (小紋・変一越)	20反	制作企画 繭生産 製糸 製織 染色	田中種(株) JA につたみどり管内養蚕農家 碓氷製糸農協 南久ちりめん(株) 高田勝(株)
(数量の追加) 田中種(株) 代表者名：田中隆 (担当者：田中隆) 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-14 タイヨウマークビル3階 TEL：06-6261-2091 表示者登録番号 060	真綿布団	15枚	(詰物) 繭生産 真綿生産 (側) 繭生産 製糸 製織 染色	JA 新ふくしま管内養蚕農家 石川彦太郎商店 JA につたみどり管内養蚕農家 碓氷製糸農協 齋栄織物(株) (株)野崎染色

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) (株) あきやま 代表者名：秋山典子 (担当者：秋山典子) 〒880-1302 宮崎県東諸県郡綾町北俣 4186 TEL：0985-77-0156 表示者登録番号 089	シヨール	50枚	蚕品種 小石丸 繭生産 宮崎養蚕振興協議会養蚕農家 製糸・染色・製織 自社
(数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：内海茂寿 (担当者：土井芳文) 〒370-0006 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地（胴裏絹）	760枚	制作企画 絹小沢（株） 繭生産 JA 高崎市管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 坪金工業（株） 精練加工 (有) 江島屋染工場
	白生地（表地）	37反	制作企画 絹小沢（株） 蚕品種 新小石丸 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん（株） 精練加工 浜縮緬（工協）

提携支援センターから

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成 28 年 3 月 15 日 (H27- 第 6 次) 現在
通算 215 者、599 品目

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物 (振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物 (色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物 (色無地)、胴裏 (灰汁浸け加工)
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物 (色無地、黒紋付)
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物 (色無地、黒紋付)
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物 (色無地、黒紋付)
010	(有) 樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物 (色無地、黒紋付)
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物 (作家作品)、後染帯地、先染反物 (大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地 (織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物 (帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物 (株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物 (色無地、黒紋付)
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物 (色無地)
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物 (色無地、黒紋付)
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物 (色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢 (株))	群馬県高崎市	裏地 (胴裏 (ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物 (作家作品、紋付地)、白生地 (世紀二一、上州絹星・ぐんま 200、新小石丸)、後染帯地 ((冬物・夏物): うるし糸が 5% を超えるもの)、寝衣 (うぶ着、おくるみ)、和装小物 (袱紗)
022	宮階織物 (株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21 世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物 (色無地、訪問着)、先染帯地 (袋帯 (草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物 (有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯)、先染反物 (御召類)、後染反物 (色無地)、先染帯地 (袋帯: 金銀糸が 5% を超えるもの)
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品 (マフラー、シャツ、ニット (ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物 (江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地)、後染帯地、白生地 (表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物 (色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物 (振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地 (長襦袢地、胴裏)、ニット (靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	横浜市港南区	後染反物 (黒紋付 (冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 栴屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒組))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢)、真綿布団

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚げ)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
096	(株) 北尾織物匠	京都市上京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯)
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まづなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚げ、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物 (色無地、付下)
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レッグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福純織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越)、訪問着)、先染反物 (緋着尺)
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株)	東京都港区	白生地 (表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物))、裏地 (紬八掛)、先染ストール
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市中央区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)

表示者登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館「紫（ゆかり）」	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里木織の家「椽（つるばみ）」	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800

名 称	〒	住 所	電 話
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 1	0257-82-4888
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
中央市豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館（絹の資料館）	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業（株）内	0268-22-1230
信州大学繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ（株）内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 4	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里・金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製糸記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www5.somard.co.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research/
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科 <http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp/>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.or.jp>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jsst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム
織成館（京都市上京区）
高崎市染料植物園
群馬県立歴史博物館
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>
<http://orinasukan.skr.jp>
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014011400979>
<http://grekisi.pref.gunma.jp>
<http://silkfact.jp>
<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya/>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場
群馬県 企画部 世界遺産課
ぐんま絹遺産
上毛新聞社関連記事

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>
http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	62
(2) 養蚕農家数の推移	63
(3) 繭生産数量の推移	64
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	65
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	66
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	67
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	68
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	69
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	70
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	71
(11) 製糸工場の原料繭需給	72
(12) 製糸工場の操業状況	73
(13) 生糸在庫数量の内訳	74
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	75
(15) 生糸の原産国別輸入数量	76
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	77
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	78
(18) 絹織物生産数量	79
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	80
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	81

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	82
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	83
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	84
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	85
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	86
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	87
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	88
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	89
(9) 中国省別従業員年平均賃金(2014年)	90
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	91

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次（暦年） Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織織機 設備台数 （保有台 数） Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千m ² 1,000 sq. meters
（平成）								
1997（9）	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998（10）	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999（11）	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000（12）	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001（13）	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002（14）	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003（15）	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004（16）	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005（17）	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006（18）	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007（19）	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008（20）	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009（21）	915	327	357	1.2	7	60	33.6	9,955
2010（22）	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011（23）	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012（24）	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013（25）	486	168	346	0.4	7	31	32.0	2,940
2014（26）	393	149	379	0.4	7	34	—	2,734
2015（27）	368	135	367	0.4	7	30	—	2,324
前年比(%) 2015/2014	93.6	90.6	96.8	100.0	100.0	88.2	—	85.0

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び（一財）大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は（一社）日本絹人織織物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
 ・平成23年以降の養蚕業は（一財）大日本蚕糸会調査である。
 （注）製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のもの
 である。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
前年比 (%)					
2015/2014		93.6	90.0	96.1	95.4

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

年 次 Year	項 目 Item	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
前年比(%) 2015/2014		91.1	88.0	90.5	94.3	97.1	98.7	93.6	98.9
2015年 構成比(%)		100.0	36.3	23.7	40.0	100.0	41.0	39.9	47.3

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比	26年	27年	前年対比
青森県	—	—	—	1	—	—	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	15	11	73.3	10	14	140.0	15	15	100.0	18	18	100.0
宮城県	11	11	100.0	11	10	90.9	14	13	92.9	17	16	94.1
山形県	7	7	100.0	5	5	100.0	6	8	133.3	8	10	125.0
福島県	40	34	85.0	41	36	87.8	47	40	85.1	48	44	91.7
茨城県	18	13	72.2	11	11	100.0	13	11	84.6	18	13	72.2
栃木県	23	22	95.7	18	14	77.8	23	23	100.0	23	23	100.0
群馬県	130	122	93.8	84	80	95.2	120	119	99.2	140	133	95.0
埼玉県	30	29	96.7	20	21	105.0	27	27	100.0	31	31	100.0
千葉県	6	6	100.0	5	5	100.0	5	6	120.0	6	6	100.0
東京都	4	4	100.0	—	—	—	3	4	133.3	4	5	125.0
新潟県	8	7	87.5	—	—	—	—	—	—	8	7	87.5
福井県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	11	7	63.6	5	5	100.0	11	8	72.7	12	9	75.0
長野県	14	14	100.0	10	9	90.0	13	15	115.4	17	16	94.1
岐阜県	11	8	72.7	—	—	—	9	5	55.6	11	8	72.7
愛知県	2	2	100.0	—	—	—	—	1	—	2	2	100.0
京都府	3	3	100.0	—	—	—	2	3	150.0	3	3	100.0
兵庫県	1	1	100.0	—	1	—	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	11	11	100.0	5	5	100.0	9	6	66.7	11	11	100.0
高知県	3	2	66.7	—	1	—	2	2	100.0	3	2	66.7
熊本県	5	4	80.0	—	—	—	2	—	—	5	4	80.0
宮崎県	2	1	50.0	—	—	—	1	1	100.0	2	1	50.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	359	323	90.0	230	221	96.1	328	313	95.4	393	368	93.6

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量 Cocoon production by prefectures

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年間		
	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比	26年	27年	前年比
青森県	-	-	-	113.7	-	-	93.7	92.4	98.6%	207.4	92.4	44.6%
岩手県	1,619.2	1,470.0	90.8%	1,450.7	1,936.6	133.5%	1,989.4	1,926.8	96.9%	5,059.3	5,333.4	105.4%
宮城県	1,791.2	1,472.6	82.2%	2,267.0	1,880.1	82.9%	2,363.9	2,191.9	92.7%	6,422.1	5,544.6	86.3%
山形県	1,222.5	1,314.5	107.5%	597.6	809.2	135.4%	1,570.4	1,483.4	94.5%	3,390.5	3,607.1	106.4%
福島県	8,335.8	6,417.0	77.0%	8,246.5	5,598.4	67.9%	11,998.8	9,184.6	76.5%	28,581.1	21,200.0	74.2%
茨城県	2,335.3	2,147.4	92.0%	1,314.7	1,405.0	106.9%	2,292.5	1,858.3	81.1%	5,942.5	5,410.7	91.1%
栃木県	8,047.0	7,919.8	98.4%	4,528.4	3,240.3	71.6%	10,309.9	9,364.9	90.8%	22,885.3	20,525.0	89.7%
群馬県	19,166.0	16,881.6	88.1%	11,382.4	11,715.2	102.9%	16,456.4	18,863.3	114.6%	47,004.8	47,460.1	101.0%
埼玉県	3,796.1	3,278.6	86.4%	2,191.5	2,271.8	103.7%	3,708.5	3,085.0	83.2%	9,696.1	8,635.4	89.1%
千葉県	1,001.6	1,105.6	110.4%	568.2	452.1	79.6%	1,026.2	931.0	90.7%	2,596.0	2,488.7	95.9%
東京都	210.4	212.3	100.9%	-	-	-	133.0	168.5	126.7%	343.4	380.8	110.9%
山梨県	2,372.2	1,904.8	80.3%	813.6	754.9	92.8%	1,882.0	1,773.4	94.2%	5,067.8	4,433.1	87.5%
長野県	1,813.2	1,572.7	86.7%	1,319.9	1,039.4	78.7%	1,771.7	1,818.1	102.6%	4,904.8	4,430.2	90.3%
新潟県	124.6	113.5	91.1%	-	-	-	-	-	-	124.6	113.5	91.1%
福井県	41.7	54.1	129.7%	33.3	26.8	80.5%	34.5	41.6	120.6%	109.4	122.5	112.0%
岐阜県	673.5	534.3	79.3%	-	-	-	568.3	457.0	80.4%	1,241.8	991.3	79.8%
愛知県	58.4	75.2	128.8%	-	-	-	0.0	35.0	-	58.4	110.2	188.7%
兵庫県	55.0	45.0	81.8%	-	40.3	-	65.0	44.7	68.8%	120.0	130.0	108.3%
京都府	82.7	74.3	89.8%	-	-	-	41.5	59.3	142.9%	124.3	133.6	107.5%
愛媛県	1,596.1	1,591.7	99.7%	952.2	1,140.3	119.8%	1,141.8	864.9	75.7%	3,690.1	3,596.9	97.5%
高知県	177.7	103.4	58.2%	-	59.7	-	82.4	64.9	78.8%	260.1	228.0	87.7%
熊本県	459.2	101.9	22.2%	-	-	-	73.6	-	-	532.8	101.9	19.1%
宮崎県	113.7	68.5	60.2%	-	-	-	34.4	58.7	170.6%	148.1	127.2	85.9%
鹿児島県	82.0	84.0	102.4%	77.0	93.2	121.0%	71.0	77.5	109.2%	230.0	254.7	110.7%
全国計	55,175.0	48,542.8	88.0%	35,856.6	32,463.3	90.5%	57,708.9	54,445.1	94.3%	148,740.5	135,451.2	91.1%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移
Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2012年 (平成24年)		2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦秋1号 × 鐘和1号		2,806	27.6	2,450	21.9	3,278	33.4	2,899	30.0
錦秋 × 鐘和月		1,818	17.8	3,221	28.8	1,754	15.7	1,946	20.1
春嶺 × 鐘200		838	8.2	1,871	16.7	1,116	10.0	1,242	12.9
ぐんま		1,443	14.2	1,125	10.1	1,104	9.9	1,019	10.5
春嶺1号 × 鐘月1号		1,175	11.5	380	3.4	872	7.8	780	8.1
松岡石		340	3.3	547	4.9	350	3.1	300	3.1
小いりょう × あけぼのり		67	0.7	76	0.7	134	1.2	180	1.9
かいろう × あど黄		416	4.1	166	1.5	140	1.3	136	1.4
いんま		55	0.5	111	1.0	76	0.7	134	1.4
ぐんま × 東石		70	0.7	64	0.6	103	0.9	116	1.2
朝新ぐん		50	0.5	67	0.6	58	0.5	110	1.1
改世良小石		324	3.2	317	2.8	129	1.2	107	1.1
改世紀二ボ一イ		33	0.3	47	0.4	126	1.1	95	1.0
プラチナ		95	0.9	71	0.6	52	0.5	93	1.0
技研ナボ11号		64	0.6	76	0.7	23	0.2	78	0.8
蚕太平 × 長黄		36	0.4	53	0.5	42	0.4	58	0.6
大白繭 × 細小		28	0.3	49	0.4	8	0.1	43	0.4
山東3眠 × C5・507		93	0.9	63	0.6	23	0.2	41	0.4
黄白繭 × 2		15	0.1	85	0.8	92	0.8	39	0.4
緑秋 × 竜1		33	0.3	17	0.2	20	0.2	39	0.4
極熟 × 支21		7	0.1	7	0.1	33	0.3	33	0.3
青 × 支21		33	0.3	42	0.4	20	0.2	32	0.3
N5・N6 × TY40		7	0.1	92	0.8	31	0.3	26	0.3
緑新 × 青1		15	0.1	41	0.4	18	0.2	22	0.2
支奄21号 × 四川3		7	0.1	21	0.2	22	0.2	11	0.1
支奄 × 黄		27	0.3	6	0.1	16	0.1	11	0.1
Nk × Cu1		4	0.0	4	0.0	5	0.0	8	0.1
白極細繭 × 2		4	0.0	4	0.0	4	0.0	6	0.1
玉細繭 × 3		4	0.0	4	0.0	4	0.0	5	0.1
蚕技研10号		4	0.0	4	0.0	4	0.0	4	0.0
鷹108号 × 青		5	0.0	9	0.1	10	0.1	8	0.1
支東3眠 × C5・505		7	0.1	8	0.1	8	0.1	3	0.0
青 × 中515		2	0.0	4	0.0	2	0.0	2	0.0
又芙蓉 × 中515		2	0.0	1	0.0	1	0.0	1	0.0
は朝 × つくば		143	1.4						
改琉球 × つくば		80	0.8						
山東3眠 × 黄		61	0.6						
中515 × 蚕		10	0.1						
諸鬼 × 紹		7	0.1						
鬼 × 中515		7	0.1						
合 計		2	0.0						
Total		1	0.0						
		10,185	100.0	11,174	100.0	9,808	100.0	9,663	100.0

資 料: (一財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年 月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,514	568	12,826	7,586
2007	1,747	12,601	—	15,624	8,080	19,439	404	11,409	7,186
2008	1,588	15,212	270	20,026	4,584	22,636	466	11,696	7,131
2009	1,152	12,075	133	13,623	4,055	16,657	387	9,028	6,271
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2015	378	6,479	0	7,194	1,316	14,051	302	5,468	5,085
2013 — 1	38	958	0	1,014	2,162	1,744	11	582	356
2	32	906	0	818	2,282	1,138	13	505	409
3	36	1,148	122	912	2,432	1,337	44	456	525
4	36	0	2	565	1,901	1,552	16	601	485
5	35	1,314	0	969	2,281	1,628	23	679	483
6	36	926	0	977	2,266	1,175	21	592	479
7	28	611	0	702	2,203	1,326	66	671	461
8	19	758	168	715	2,097	1,288	61	501	416
9	26	566	0	743	1,946	918	68	447	403
10	40	855	0	934	1,907	1,354	45	567	465
11	42	491	0	739	1,701	1,351	19	570	500
12	41	800	0	830	1,712	1,033	40	491	450
2014 — 1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 — 1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
8	25	467	0	448	1,543	1,238	47	371	391
9	23	479	0	557	1,488	1,152	30	364	380
10	28	462	0	517	1,461	1,161	16	549	504
11	25	530	0	509	1,507	1,024	6	522	403
12	27	380	0	504	1,410	983	17	407	434
2016 — 1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
2	595	0	0	797	797	10	460	348	

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査 (～2010.3)、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会 (2010.4～2012.3)、中央蚕糸協会 (2012.12～)。 (B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。 (F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3)、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Association (2012.12～)。

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on data of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = {Stock at end of the previous month + (A) + (B)} - {(C) + (E)}。
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month		生 糸 Raw Silk					
		計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year							
2005		2,508	8	337	834	799	527
2006		1,956	4	240	531	653	523
2007		1,747	5	259	495	514	474
2008		1,588	4	289	421	368	503
2009		1,152	1	243	392	251	262
2010		882	1	179	316	86	300
2011		731	1	188	249	89	204
2012		506	0	149	202	73	82
2013		409	0	109	105	57	138
2014		447	0	114	116	62	155
2015		378	0	146	86	36	110
2013 -	1	38	—	16	3	10	9
	2	32	—	6	12	5	9
	3	36	—	10	15	3	8
	4	36	—	7	13	6	10
	5	35	—	8	9	9	9
	6	36	—	8	13	0	15
	7	28	—	8	5	1	14
	8	19	—	7	1	0	11
	9	26	—	13	1	2	10
	10	40	—	9	6	11	14
	11	42	—	9	12	6	15
	12	41	—	8	15	4	14
2014 -	1	30	—	9	3	2	16
	2	39	—	10	4	0	25
	3	35	—	14	6	6	9
	4	42	—	7	11	7	17
	5	41	—	9	17	5	10
	6	45	—	13	12	5	15
	7	39	—	13	8	8	10
	8	24	—	1	15	0	8
	9	32	—	9	10	1	12
	10	43	—	10	8	11	14
	11	34	—	9	12	9	4
	12	43	—	10	10	8	15
2015 -	1	35	—	10	12	6	7
	2	44	—	6	12	12	14
	3	37	—	17	11	4	5
	4	38	—	16	2	8	12
	5	29	—	13	4	0	12
	6	37	—	15	6	2	14
	7	30	—	13	6	0	11
	8	25	—	8	9	0	8
	9	23	—	14	3	1	5
	10	28	—	8	12	0	8
	11	25	—	12	5	2	6
	12	27	—	14	4	1	8
2015 -	1	23	—	7	11	0	5

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					計 ③ Total	輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③		
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second		生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	13	0	0	12	5	163	45
前年比(%) 2015/2014	98	100	—	98	75	93	92	100	98	93	—	—	92	500	98	100

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		1.8	2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	2.4	70.6	1.7
	女子用外衣類 Women's upper garments		37.1	38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	65.6	122.8	45.3
	うちブラウス Blouse of the inside		2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	1.2	41.4	0.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.1	1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	1.3	65.0	0.9
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		13.5	13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	18.8	85.8	13.0
	ハンカチ Handkerchief		0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	100.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl,scarves		2.5	2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	1.9	95.0	1.3
	ネクタイ類 Ties		18.2	18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	7.8	80.4	5.4
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		15.9	17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	17.9	87.7	12.4
	その他の洋装類 Other western clothes		22.0	21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	15.9	89.3	11.0
洋装類計 Western clothes subtotal			112.4	115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	131.9	100.8	91.2
和装類計 Japanese clothes subtotal			15.9	14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	10.3	84.4	7.1
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside		13.9	12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	8.6	85.1	5.9
その他 Others			1.9	2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	2.6	144.4	1.8
合 計 Total			130.2	133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	144.7	99.9	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note: Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
2005		806	830	589
2006		600	645	541
2007		548	581	505
2008		393	518	378
2009		308	385	313
2010		240	299	263
2011		189	162	237
2012		185	209	183
2013		142	137	188
2014		128	158	158
2013	— 1	0	11	172
	2	1	10	163
	3	0	13	150
	4	0	14	136
	5	3	13	126
	6	21	11	136
	7	38	10	164
	8	16	7	173
	9	7	8	172
	10	40	13	199
	11	4	13	190
	12	12	14	188
2014	— 1	0	11	177
	2	0	15	162
	3	0	12	150
	4	0	15	135
	5	0	14	121
	6	24	14	131
	7	29	14	146
	8	17	9	154
	9	9	11	152
	10	38	15	175
	11	11	12	174
	12	0	16	158
2015	— 1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6	22	13	104
	7	29	11	122
	8	14	8	128
	9	12	37	103
	10	34	9	128
	11	5	9	124
	12	0	9	115
2016	— 1	0	8	107

資 料：農林水産省生産局調査(～2010. 3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010. 4～2012. 11)。
中央蚕糸協会(2012. 12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。
2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。
3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010. 4～2012. 11).
Central Raw Silk Association (2012. 12～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.
2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2005		10	203	126	62	269	111
2006		9	114	94	82	266	103
2007		8	112	93	83	266	100
2008		7	112	90	80	266	90
2009		7	118	71	60	259	82
2010		7	118	58	49	247	73
2011		7	110	57	52	252	65
2012		7	110	39	35	243	56
2013		7	110	38	31	249	58
2014		7	110	38	34	261	58
2015		7	110	33	30	263	56
2013 —	1	7	110	41	37	20	55
	2	7	110	36	33	21	55
	3	7	110	35	32	22	55
	4	7	110	36	33	22	58
	5	7	110	33	30	22	60
	6	9	110	34	31	18	67
	7	8	110	25	23	23	61
	8	6	110	16	15	20	53
	9	7	110	33	30	14	59
	10	7	110	36	33	23	59
	11	7	110	37	34	22	57
	12	7	110	38	35	22	57
2014 —	1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
2015 —	1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60
	6	8	110	39	35	23	60
	7	8	110	35	32	22	60
	8	6	110	26	24	20	48
	9	6	110	23	21	23	48
	10	6	110	25	23	23	53
	11	7	110	27	25	22	53
	12	7	110	27	23	23	53
2016 —	1	7	110	25	19	19	53

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。
中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012.12～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。
2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。
3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).
Central Raw Silk Association(2012.12～)

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	総 計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計	製糸工場	生糸市場 売買業者	生糸市場外 売買業者	生糸輸出 入業者	受 入 数 量	引 渡 数 量	在庫数量
暦 年 Calendar Year		Total	Filatures Mills	Dealers	Domestic Dealers	Ex and Importers	Accepts	Deliveries	Ending Stocks
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
2013 — 1	2,162	2,162	136	—	2,026				
2	2,282	2,282	143	—	2,139				
3	2,432	2,432	136	—	2,296				
4	1,901	1,901	137	—	1,764				
5	2,281	2,281	130	—	2,151				
6	2,266	2,266	137	—	2,129				
7	2,203	2,203	118	—	2,085				
8	2,097	2,097	110	—	1,987				
9	1,946	1,946	97	—	1,849				
10	1,907	1,907	103	—	1,804				
11	1,701	1,701	110	—	1,591				
12	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014 — 1	1,839	1,839	116	—	1,723				
2	1,887	1,887	114	—	1,773				
3	1,991	1,991	78	—	1,913				
4	1,756	1,756	85	—	1,671				
5	1,999	1,999	99	—	1,900				
6	1,967	1,967	88	—	1,879				
7	1,877	1,877	79	—	1,798				
8	1,786	1,786	74	—	1,712				
9	1,728	1,728	63	—	1,665				
10	1,725	1,725	67	—	1,658				
11	1,642	1,642	66	—	1,576				
12	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015 — 1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				
6	1,535	1,535	88	—	1,447				
7	1,499	1,499	89	—	1,410				
8	1,543	1,543	87	—	1,456				
9	1,488	1,488	89	—	1,399				
10	1,461	1,461	87	—	1,374				
11	1,507	1,507	79	—	1,428				
12	1,410	1,410	94	—	1,316				
2015 — 1	1,343	1,343	93	—	1,251				

資 料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）。中央蚕糸協会（2012.12～）

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）.

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association（2010.4～2012.11）.

Central Raw Silk Association（2012.12～）.

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年(2016)		27年/26年 2015/2014 (%)
									(2月) Feb.	(累計) Accumulate d Total	
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	12,075	12,207	9,323	10,032	9,332	8,235	6,479	595	1,018	78.7
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	16,647	16,306	17,526	16,179	15,844	14,820	14,051	797	1,899	94.8
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	149	82	62	81	169	48	33	0	10	68.8
繭 Cocoon	kg	9,800	13,158	4,050	6,250	8,300	10,200	6,800	0	0	66.7
くず繭 Waste Cocoon	kg	33,450	9,395	10,885	6,457	13,314	11,728	8,860	1,540	1,540	75.5
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	125,999	134,852	98,732	107,023	92,024	101,655	89,984	1,503	9,802	88.5
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	159,449	144,247	109,617	107,022	105,338	113,383	98,844	3,043	11,342	87.2
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	335,710	451,219	394,920	482,523	438,786	453,450	343,101	28,225	57,231	75.7
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	97,554	104,374	118,404	140,188	152,749	141,707	148,796	8,117	15,272	105.0
絹織物 Silk Fabrics	m ²	9,027,911	8,930,391	8,422,094	7,218,094	6,661,585	6,097,501	5,468,177	460,109	927,626	89.7

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	—	206	—
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	—	122	—
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	—	41	—
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	—	32	—
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	—	5	—
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	—	—	—
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	—	—
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	—
2013 - 1	958 (10)	918 (10)	40	—	—	—
2	906 (9)	698 (7)	207 (2)	—	—	—
3	1,148 (17)	1,083 (17)	65	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—
5	1,314 (25)	1,031 (15)	278 (10)	5	—	—
6	925	841	84	—	—	—
7	611 (2)	539	72 (2)	—	—	—
8	758 (15)	577	176 (10)	5 (5)	—	—
9	566	546	20	—	—	—
10	855 (15)	689 (10)	166 (5)	—	—	—
11	491	416	75	—	—	—
12	800 (6)	708	92 (6)	—	—	—
2014 - 1	776	687	88	—	1	—
2	591 (2)	465 (2)	107	—	—	20
3	1,055 (13)	973 (13)	76	5	—	—
4	270 (4)	169 (4)	100	—	2	—
5	927 (25)	795 (20)	132 (5)	—	—	—
6	869 (17)	683 (7)	133 (10)	50	2	—
7	599	522	75	—	2	—
8	548	459	79	10	—	—
9	591	480	111	—	—	—
10	748 (14)	660 (14)	83	5	—	—
11	667 (5)	564 (5)	103	—	—	—
12	600 (10)	544 (10)	56	—	—	—
2015 - 1	722	510	212	—	—	—
2	614 (2)	589 (2)	15	10	—	—
3	802 (2)	769	33 (2)	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—
5	822 (3)	689 (3)	133	—	—	—
6	628 (23)	572 (23)	47	10	—	—
7	572 (15)	534 (10)	36 (5)	—	2	—
8	467 (6)	417 (6)	50	—	—	—
9	479	364	115	—	—	—
10	462 (6)	366 (6)	96	—	—	—
11	530 (2)	444	86 (2)	—	—	—
12	380	315	65	—	—	—
2016 - 1	423 (10)	299 (10)	124	—	—	—
2	595	493	102 (3)	—	—	—

資 料 : 財務省関税局調査

備 考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
年月 Year & Month								
暦 年 Calendar Year								
2008	22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009	16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010	16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011	17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012	16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013	15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014	14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2015	14,051	—	7,928	5,586	4	0	531	2
2013 — 1	1,744	—	1,080	612	—	—	52	—
2	1,138	—	616	429	—	—	93	—
3	1,337	—	940	342	5	—	50	—
4	1,552	—	880	574	—	—	95	3
5	1,629	—	1,012	545	1	—	71	—
6	1,175	—	660	446	3	—	67	—
7	1,326	—	729	555	4	—	38	—
8	1,288	—	750	419	1	—	118	—
9	918	—	489	413	1	—	15	—
10	1,354	—	682	541	1	—	131	—
11	1,351	—	676	576	18	—	81	—
12	1,033	—	635	331	1	—	66	—
2014 — 1	1,579	—	820	692	—	—	67	—
2	677	—	313	271	1	—	91	—
3	1,338	—	922	371	—	—	45	—
4	1,392	—	744	556	—	—	90	2
5	1,332	—	806	456	—	—	69	—
6	1,355	—	813	471	1	—	71	—
7	1,311	—	720	531	1	—	59	—
8	1,203	—	630	498	—	—	56	19
9	1,411	—	762	560	3	—	86	—
10	1,121	—	433	600	2	—	86	—
11	1,008	—	582	326	1	—	99	—
12	1,094	—	647	402	1	—	45	—
2015 — 1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
3	693	—	405	268	—	0	21	—
4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
8	1,238	—	732	490	—	—	15	1
9	1,152	—	692	401	—	—	59	—
10	1,161	—	528	594	—	—	39	—
11	1,024	—	536	431	1	—	56	0
12	983	—	601	339	2	—	41	—
2016 — 1	1,101	—	564	476	—	—	62	—
2	797	—	468	292	0	0	35	2

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/K g

Unit: bale of 60kg, yen/kg

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2014 - 1	687	6,560	88	8,429	820	6,758	67	9,549	692	6,812
2	463	6,575	107	8,487	313	6,790	91	9,402	271	6,591
3	961	6,433	76	8,230	922	6,543	45	9,366	371	6,977
4	164	6,583	100	8,283	744	6,658	90	9,330	556	6,682
5	775	6,364	127	8,291	806	6,696	69	9,311	466	6,823
6	676	6,392	124	8,224	813	6,336	71	9,296	471	6,756
7	522	6,237	75	8,205	720	6,341	59	9,251	531	6,625
8	459	6,223	79	8,313	630	6,324	56	9,299	498	6,592
9	480	6,264	111	8,302	762	6,471	86	9,336	560	6,733
10	646	6,407	83	8,485	433	6,778	86	9,665	600	6,857
11	559	6,496	103	8,509	582	6,667	99	9,764	326	6,973
12	534	6,944	56	8,760	647	7,173	45	10,322	402	7,220
2015 - 1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285
9	364	6,760	115	7,593	692	6,854	59	8,577	401	7,007
10	360	6,381	96	7,553	528	6,625	39	8,424	594	6,948
11	444	6,338	84	7,827	536	6,825	56	8,506	431	6,872
12	315	6,496	65	7,091	601	6,665	41	8,132	339	6,821
2016 - 1	289	6,176	124	6,937	564	6,281	62	7,798	476	6,358
2	493	6,000	99	7,188	468	6,279	35	7,786	292	6,422

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000㎡)
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,298	6,980	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	9,955	3,239	1,254	1,045	939	5,288	3,441	1,847	1,428
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,324	1,228	661	34	530	637	283	353	460
2014 — 1	226	120	67	3	50	51	23	28	55
2	236	121	68	3	50	57	25	32	58
3	240	125	75	4	46	57	26	31	58
4	244	125	73	4	48	61	29	32	58
5	249	134	70	4	61	57	24	33	57
6	252	137	72	4	61	57	25	32	58
7	238	125	67	3	55	55	24	31	57
8	195	104	63	3	38	47	20	27	43
9	207	111	66	3	43	53	24	29	43
10	222	112	63	3	45	58	27	31	52
11	212	112	61	3	48	56	26	31	44
12	214	113	57	3	53	56	26	30	45
2015 — 1	193	99	60	3	36	53	22	30	42
2	183	86	57	2	27	54	25	29	43
3	193	94	60	3	31	57	27	30	41
4	209	110	57	2	51	58	29	30	40
5	183	99	52	3	43	51	22	29	33
6	218	121	57	3	61	55	24	31	42
7	207	111	53	3	54	56	23	33	40
8	161	84	53	3	28	45	20	25	32
9	184	99	53	3	43	50	23	27	36
10	198	104	55	3	45	54	24	30	40
11	194	106	52	3	52	53	23	30	35
12	201	115	52	3	59	51	21	29	36
2016 — 1	172	94	54	3	38	44	18	26	34

資 料 : (一社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver' s Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango, Nagahama and Nishijin

項目 Item 年月 Year & Month	絹織物生産数量		丹 後 Tango		長 浜 Nagahama		西 陣 Nishijin	
	Silk Fabrics Production		(白生地) (White Fabrics)		(白生地) (White Fabrics)		(帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,816	90.5	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,504	93.4	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,955	70.9	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,324	85.0	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2014 — 1	226	94.6	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	236	97.5	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	240	96.8	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	244	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	249	101.2	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	252	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	238	90.5	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	195	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	207	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	222	85.7	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	212	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	214	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 — 1	193	85.4	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	183	77.5	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	193	80.4	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	209	85.7	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	183	73.5	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	218	86.5	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	207	87.0	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8	161	82.6	27,192	90.3	3,122	93.1	34,886	81.3
9	184	88.9	28,540	82.3	3,270	66.6	43,982	87.0
10	198	89.2	28,745	91.0	2,808	63.6	44,298	87.8
11	194	91.5	30,007	84.3	3,138	75.1	37,921	85.8
12	201	93.9	26,428	81.0	2,786	68.8	43,936	95.8
2016 — 1	172	89.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2			28,277	81.3	3,482	89.4		
3			25,517	81.9	3,284	73.4		

資 料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備 考：1. 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況
Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2015	287,374	▲ 1.3	11,363	▲ 5.2	165	▲ 27.0	4,451	▲ 3.6	2,389	▲ 5.1	994	▲ 9.4
2013 - 1	288,934	2.1	12,301	▲ 6.4	28	▲ 89.8	5,208	▲ 6.0	2,592	▲ 3.3	1,110	▲ 1.4
2	268,099	0.1	9,117	3.3	194	▲ 49.2	4,053	9.5	1,647	7.6	738	0.8
3	316,166	4.1	13,271	9.1	138	▲ 7.3	6,177	11.2	2,357	16.1	848	▲ 3.2
4	304,382	0.8	11,762	0.6	134	41.1	4,557	3.6	2,512	3.2	868	▲ 7.1
5	282,366	▲ 1.9	12,400	7.0	231	86.3	4,077	7.3	2,956	6.7	1,142	6.5
6	269,418	▲ 0.1	12,139	8.3	419	147.9	4,088	12.7	2,933	6.3	1,130	▲ 3.3
7	286,098	1.0	11,876	▲ 0.4	194	▲ 18.8	4,091	4.3	3,174	0.4	1,224	▲ 4.8
8	284,646	▲ 0.5	8,829	2.3	71	▲ 81.4	2,857	6.4	2,193	6.4	984	2.5
9	280,692	5.2	9,180	8.8	182	▲ 3.2	3,457	19.2	1,936	3.2	807	▲ 3.6
10	290,676	2.3	12,483	2.4	246	0.8	5,123	10.5	2,595	1.4	1,043	▲ 7.6
11	279,546	2.1	13,741	▲ 0.5	94	▲ 82.8	5,663	5.0	2,593	2.0	1,404	1.6
12	334,433	2.7	13,974	1.2	187	8.7	5,639	1.2	2,554	3.2	1,490	▲ 2.4
2014 - 1	297,070	2.8	14,736	19.8	632	2,157.1	6,424	23.3	2,868	10.6	1,100	▲ 0.9
2	266,610	▲ 0.6	8,384	▲ 8.0	110	▲ 43.3	3,573	▲ 11.8	1,484	▲ 9.9	665	▲ 9.9
3	345,443	9.3	14,955	12.7	168	21.7	6,719	8.8	2,534	7.5	1,166	37.5
4	302,141	▲ 0.7	11,308	▲ 3.9	79	▲ 41.0	4,330	▲ 5.0	2,475	▲ 1.5	866	▲ 0.2
5	271,411	▲ 3.9	12,145	▲ 2.1	238	3.0	3,923	▲ 3.8	2,913	▲ 1.5	1,133	▲ 0.8
6	272,791	1.3	12,141	0.0	322	▲ 23.2	4,130	1.0	2,785	▲ 5.0	1,184	4.8
7	280,293	▲ 2.0	11,262	▲ 5.2	352	81.4	3,658	▲ 10.6	2,969	▲ 6.5	1,186	▲ 3.1
8	282,124	▲ 0.9	9,307	5.4	226	218.3	3,105	8.7	2,147	▲ 2.1	981	▲ 0.3
9	275,226	▲ 1.9	9,178	▲ 0.0	169	▲ 7.1	3,197	▲ 7.5	2,153	11.2	809	0.2
10	288,579	▲ 0.7	11,988	▲ 4.0	221	▲ 10.2	4,649	▲ 9.3	2,569	▲ 1.0	1,053	1.0
11	280,271	0.3	14,110	2.7	119	26.6	5,959	5.2	2,748	6.0	1,324	▲ 5.7
12	332,363	▲ 0.6	14,286	2.2	82	▲ 56.1	5,734	1.7	2,574	0.8	1,702	14.2
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7
5	286,433	5.5	12,499	2.9	101	▲ 57.6	4,191	6.8	2,975	2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6
7	280,471	0.1	11,552	2.6	144	▲ 59.1	4,135	13.0	2,923	▲ 1.5	1,103	▲ 7.0
8	291,156	3.2	8,996	▲ 3.3	179	▲ 20.8	2,890	▲ 6.9	2,058	▲ 4.1	977	▲ 0.4
9	274,309	▲ 0.3	9,269	1.0	288	70.4	3,310	3.5	2,082	▲ 3.3	805	▲ 0.5
10	282,401	▲ 2.1	11,468	▲ 4.3	179	▲ 19.0	4,481	▲ 3.6	2,459	▲ 4.3	1,008	▲ 4.3
11	273,268	▲ 2.5	12,390	▲ 12.2	351	195.0	5,116	▲ 14.1	2,291	▲ 16.6	1,160	▲ 12.4
12	318,254	▲ 4.2	12,099	▲ 15.3	22	▲ 73.2	4,938	▲ 13.9	2,214	▲ 14.0	1,356	▲ 20.3
2016 - 1	280,973	▲ 3.1	12,332	▲ 4.3	42	▲ 77.7	5,401	▲ 8.8	2,374	1.8	1,137	3.2
2	269,774	1.6	8,435	▲ 4.0	63	▲ 46.2	3,755	▲ 3.3	1,495	▲ 12.6	669	9.7

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

－資料・海外－

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2009年	2010年	2011年
		トン	トン	トン
日本	Japan	327	265	220
中国	China	575,299	617,915	836,000
インド	India	131,661	131,924	185,968
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	4,673
ブラジル	Brazil	4,835	4,439	3,037
タイ	Thailand	4,655	4,655	4,580
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,896	20,000	9,400
イラン	Iran	1,185	1,185	789
トルコ	Turkey	140	140	154
インドネシア	Indonesia	133	161	143
ブルガリア	Bulgaria	51	75	48
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	4.0	4	6.0
シリア	Syria	4.0	4	3.3
主要国の計	Total	765,290	801,867	1,045,121

区 分		2012年	2013年	2014年
		トン	トン	トン
日本	Japan	202	168	149
中国	China	831,000	817,000	819,000
インド	India	190,960	213,548	231,516
ベトナム	Vietnam	4,206	4,439	3,925
ブラジル	Brazil	2,620	2,608	2,563
タイ	Thailand	4,580	4,755	4,839
ウズベキスタン	Uzbekistan	9,400	9,800	11,000
イラン	Iran	809	809	724
トルコ	Turkey	154	175	224
インドネシア	Indonesia	143	114	71
ブルガリア	Bulgaria	73	73	65
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	5.4	6.0	6.6
シリア	Syria	3.3	4.7	3.3
主要国の計	Total	1,044,256	1,053,600	1,074,186

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2009年		2010年		2011年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	69	1,152	53	882	44	731
中国	China	92,455	1,540,917	95,778	1,596,300	103,849	1,730,817
インド	India	16,322	272,033	16,360	272,667	23,060	384,333
ベトナム	Vietnam	550	9,167	2,250	37,500	500	8,333
ブラジル	Brazil	811	13,517	770	12,833	558	9,300
タイ	Thailand	665	11,083	665	11,083	655	10,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	780	13,000	940	15,667	940	15,667
イラン	Iran	82	1,367	75	1,250	120	2,000
トルコ	Turkey	20	333	18	300	22	367
インドネシア	Indonesia	19	317	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	9.0	150	6.0	100
ギリシャ	Greece	4	67	4	67	4	67
フィリピン	Philippines	1	17	1	17	1	17
シリア	Syria	0.6	10	0.6	10	0.5	8
主要国の計	Total	111,788	1,863,129	116,944	1,949,059	129,779	2,162,989

区 分		2012年		2013年		2014年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	30	506	25	409	28	466
中国	China	126,000	2,100,000	130,000	2,166,667	146,000	2,433,333
インド	India	23,679	394,650	26,480	441,333	28,708	478,467
ベトナム	Vietnam	450	7,500	475	7,917	420	7,000
ブラジル	Brazil	440	7,333	440	7,333	433	7,217
タイ	Thailand	655	10,917	680	11,333	692	11,533
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	980	16,333	1,100	18,333
イラン	Iran	123	2,050	123	2,050	110	1,833
トルコ	Turkey	22	367	25	417	32	533
インドネシア	Indonesia	20	333	16	267	10	167
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	9	150	8	133
ギリシャ	Greece	4	67	4	67	4	67
フィリピン	Philippines	0.9	15	1.0	17	1.1	18
シリア	Syria	0.5	8	0.7	12	0.5	8
主要国の計	Total	152,374	2,539,563	159,258	2,654,304	177,547	2,959,109

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

区分 省 Province		家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)				生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)			
		2009	2010	2011	前年比 2011/10	2009	2010	2011	前年比 2011/10
山	西 Shanxi	4,046	5,894	6,622	112	266	182	64	35
河	北 Hebei	1,200	1,500	1,500	100	—	—	—	—
江	蘇 Jiangsu	73,175	77,399	70,000	90	17,800	16,000	19,506	122
浙	江 Zhejiang	45,600	57,000	60,000	105	15,000	14,436	15,162	105
安	徽 Anhui	24,800	25,000	25,000	100	5,200	6,438	5,487	85
江	西 Jiangxi	7,602	7,000	7,700	110	2,900	3,591	0	—
山	東 Shandong	23,900	22,000	20,800	95	5,800	7,510	3,723	50
河	南 Henan	10,101	7,500	8,340	111	2,100	103	0	—
湖	北 Hubei	17,150	10,600	6,612	62	555	446	437	98
湖	南 Hunan	3,182	2,452	2,596	106	104	197	2,170	1,102
広	東 Guangdong	53,321	39,300	43,600	111	1,722	1,711	1,183	69
広	西 Guangxi	172,900	214,000	231,000	108	16,237	18,164	17,551	97
重	慶 Chongqing	17,311	17,200	18,500	108	4,200	4,000	3,811	95
四	川 Sichuan	70,000	71,000	74,000	104	14,900	14,900	28,074	188
貴	州 Guizhou	2,751	1,460	1,370	94	105	134	182	136
雲	南 Yunnan	30,230	40,000	42,700	107	2,237	2,138	2,108	99
陝	西 Shaanxi	17,200	17,600	18,040	103	3,263	3,664	4,391	120
甘	粛 Gansu	253	304	271	89	—	—	0	—
寧	夏 Ningxia	126	126	130	103	—	—	0	—
新	疆 Xinjiang	450	580	210	36	—	—	0	—
内	蒙 古 Inner Mongolia	—	—	—	—	66	64	0	—
合	計 Total	575,299	617,915	638,991	103	92,455	95,778	103,849	108

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2014年
北 京	Beijing														
天 津	Tianjin														
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	0.7	0.6
内 蒙 古	Inner Mongolia														
遼 寧	Liaoning														0.0
吉 林	Jilin														
黒 龍 江	Heilongjiang														
上 海	Shanghai						0.0	0.0							
江 蘇	Jiangsu	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	7.3	7.7	7.0	5.7
浙 江	Zhejiang	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	4.6	5.7	6.0	4.7
安 徽	Anhui	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	2.5	2.5	2.5	3.1
福 建	Fujian														
江 西	Jiangxi	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	0.8	0.7	0.8	0.7
山 東	Shandong	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	2.4	2.2	2.1	2.5
河 南	Henan	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	1.0	0.8	0.8	1.7
湖 北	Hubei	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	1.7	1.1	0.7	0.6
湖 南	Hunan			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	0.3	0.1
広 東	Guangdong	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	5.3	3.9	4.4	10.5
広 西	Guangxi	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	17.3	21.4	23.1	34.0
海 南	Hainan														0.1
重 慶	Chongqing	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	1.7	1.7	1.9	1.8
四 川	Sichuan	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	7.0	7.1	7.4	11.3
貴 州	Guizhou	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3	0.1	0.1	0.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	3.0	4.0	4.3	3.2
チベット	Tibet														
陝 西	Shaanxi	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	1.7	1.8	1.8	1.2
甘 肅	Gansu						0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
青 海	Qinghai														
寧 夏	Ningxia						0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	
合 計	Total	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	57.5	61.8	63.9	81.9

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料、2014年は「中国統計年鑑2015」による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2016年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		92.95 ~ 108.93	1,673 ~ 1,961
2	玉繭(double cocoon)		86.50 ~ 97.68	1,557 ~ 1,758
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	90.80 ~ 105.00	1,634 ~ 1,890
4	ビス(bisu)		80.80 ~ 89.00	1,454 ~ 1,602
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	293.00 ~ 299.98	5,274 ~ 5,400
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	296.00 ~ 301.45	5,328 ~ 5,426
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	285.00 ~ 290.00	5,130 ~ 5,220
8	玉糸(doupion silk)	110d	290.00 ~ 300.00	5,220 ~ 5,400
9	土糸(native silk)	110d	272.00 ~ 280.00	4,896 ~ 5,040
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	28.38 ~ 30.38	511 ~ 547
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	24.00 ~ 26.67	432 ~ 480
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	41.00 ~ 45.00	738 ~ 810
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	45.33 ~ 48.33	816 ~ 870
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	39.67 ~ 41.67	714 ~ 750
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	33.67 ~ 35.67	606 ~ 642

注:1元=18円

2016年3月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		95.54 ~ 108.90	1,624 ~ 1,851
2	玉繭(double cocoon)		90.66 ~ 98.36	1,541 ~ 1,672
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	92.42 ~ 102.70	1,571 ~ 1,746
4	ビス(bisu)		84.04 ~ 92.38	1,429 ~ 1,570
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	297.20 ~ 301.50	5,052 ~ 5,126
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	299.90 ~ 303.44	5,098 ~ 5,158
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	289.20 ~ 297.40	4,916 ~ 5,056
8	玉糸(doupion silk)	110d	291.48 ~ 299.70	4,955 ~ 5,095
9	土糸(native silk)	110d	280.78 ~ 288.46	4,773 ~ 4,904
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	28.10 ~ 30.10	478 ~ 512
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	24.20 ~ 26.80	411 ~ 456
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	41.00 ~ 45.00	697 ~ 765
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	45.13 ~ 48.13	767 ~ 818
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	39.47 ~ 41.67	671 ~ 708
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	33.47 ~ 35.47	569 ~ 603

注:1元=17円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興市)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,055.8	6,172.6	1,210.6	672.6	119.0	117.4	115.6	142.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	103.8	106.2	101.1	124.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	99.4	94.7	82.2	155.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	106.5	105.1	94.4	120.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	107.9	106.2	95.5	120.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	111.4	109.9	94.5	123.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	111.7	107.3	96.1	130.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	112.4	108.5	100.4	125.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	114.9	111.4	101.0	125.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	117.1	111.4	103.4	130.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	117.6	113.3	108.5	126.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	121.5	119.9	112.6	124.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	119.7	116.8	108.6	125.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	114.2	112.2	105.8	117.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	117.3	113.8	112.6	122.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	126.8	116.3	121.2	139.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	118.3	113.8	114.6	122.9
2013年	93,064.3	33,359.6	2,195.8	57,508.9	131.2	101.2	110.3	159.9
2014年	102,817.2	36,106.6	2,302.7	64,408.0	110.5	108.2	104.9	112.0

資料： 中国統計年鑑 (2015)

Source: China Statistical Yearbook 2015

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対 前 年 指 数 Indices (preceding year=100)							
					名 目 賃 金 Average Wage				実 質 賃 金 Average Real Wage			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	118.9	117.3	121.1	119.9	101.8	100.4	103.7	102.6
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	107.8	107.6	104.7	106.7	104.5	104.4	101.6	103.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	115.5	113.5	117.7	101.6	116.2	114.2	118.4	102.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	111.7	111.4	108.4	109.8	113.2	112.9	109.8	111.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	112.2	111.8	108.4	110.8	111.3	110.9	107.5	109.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	116.1	117.0	109.8	110.7	115.3	116.2	109.0	109.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	114.2	115.0	111.5	108.4	115.4	116.2	112.6	109.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	112.9	113.0	113.0	110.1	111.9	112.0	112.0	109.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	114.0	114.5	112.7	111.3	110.3	110.9	109.1	107.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	114.3	115.4	114.9	111.2	112.5	113.6	113.1	109.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	114.6	114.4	115.1	114.4	112.9	112.7	113.4	112.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	118.5	120.2	120.0	115.6	113.4	115.0	114.8	110.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	116.9	116.0	117.2	117.6	110.7	109.8	111.0	111.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	111.6	112.7	113.8	109.8	112.6	113.7	114.8	110.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	113.3	112.4	116.5	114.2	109.8	108.9	112.9	110.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	114.4	113.4	119.9	115.4	108.6	107.7	113.9	109.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	111.9	111.2	117.3	112.2	109.0	108.3	114.3	109.2
2013年	51,483	52,657	38,905	51,453	110.1	108.9	115.2	111.0	107.3	106.1	112.2	108.2
2014年	56,360	57,296	42,742	56,485	109.5	108.8	109.9	109.8	107.2	106.6	107.6	107.5

中国統計年鑑2015 Source: China Statistical Yearbook

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469	22,687	25,820	28,365
採掘業 Mining	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230	56,946	60,138	61,677
製造業 Manufacturing	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665	41,650	46,431	51,369
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723	58,202	67,085	73,339
建築業 Construction	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103	36,483	42,072	45,804
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078	53,391	57,993	63,416
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918	80,510	90,915	100,845
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654	46,340	50,308	55,838
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486	31,267	34,044	37,264
金融業 Financial Intermediation	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109	89,743	99,653	108,273
不動産業 Real Estate	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837	46,764	51,048	55,568
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976	53,162	62,538	67,131
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252	69,254	76,602	82,259
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868	32,343	36,123	39,198
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169	35,135	38,429	41,882
教育 Education	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194	47,734	51,950	56,580
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206	52,564	57,979	63,267
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878	53,558	59,336	64,375
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062	46,074	49,259	53,110
合 計 Total	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799	46,769	51,483	56,360

(出所)中国統計年鑑2015

Source: China Statistical Yearbook 2015

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
製造業 Manufactur	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645	541,450	835,758	976,011
合 計 Total	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387	607,997	926,694	1,070,840
年別人民元yuan／円yenレート	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00	13.00	18.00	19.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金 (2014年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省（区）別 Region			年平均賃金 (単位:元)(yuan)	円換算 (円) (yen)	全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	102,268	1,943,092	181.45
天	津	Tianjin	72,773	1,382,687	129.12
河	北	Hebei	45,114	857,166	80.05
山	西	Shanxi	48,969	930,411	86.89
内	蒙	Inner Mongolia	53,748	1,021,212	95.37
遼	寧	Liaoning	48,190	915,610	85.50
吉	林	Jilin	46,516	883,804	82.53
黒	龍	Heilongjiang	44,036	836,684	78.13
上	海	Shanghai	100,251	1,904,769	177.88
江	蘇	Jiangsu	60,867	1,156,473	108.00
浙	江	Zhejiang	61,572	1,169,868	109.25
安	徽	Anhui	50,894	966,986	90.30
福	建	Fujian	53,426	1,015,094	94.79
江	西	Jiangxi	46,218	878,142	0.03
山	東	Shandong	51,825	984,675	91.95
河	南	Henan	42,179	801,401	74.84
湖	北	Hubei	49,838	946,922	88.43
湖	南	Hunan	47,117	895,223	83.60
広	東	Guangdong	59,481	1,130,139	105.54
広	西	Guangxi	45,424	863,056	80.60
海	南	Hainan	49,882	947,758	88.51
重	慶	Chongqing	55,588	1,056,172	98.63
四	川	Sichuan	52,555	998,545	93.25
貴	州	Guizhou	52,772	1,002,668	93.63
雲	南	Yunnan	46,101	875,919	81.80
西	蔵	Tibet	61,235	1,163,465	108.65
陝	西	Shaanxi	50,535	960,165	89.66
甘	肅	Gansu	46,960	892,240	83.32
青	海	Qinghai	57,084	1,084,596	101.28
寧	夏	Ningxia	54,858	1,042,302	97.33
新	疆	Xinjiang	53,471	1,015,949	94.87
全	国	Average	56,360	1,070,840	100.00

(出所) 中国統計年鑑2015 Source: China Statistical Yearbook 2015

(注) 1 元=19円 Note: 1yuan=19yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	435,500 (101%)	7,258

資料: ブラタク製糸株式会社

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtac S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

※「シルクレポート」の記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2016 年 5 月号 NO.48 平成 28 年 5 月 1 日発行

編集 / 発行

(問い合わせ先)

**一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸・絹業提携支援センター**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず